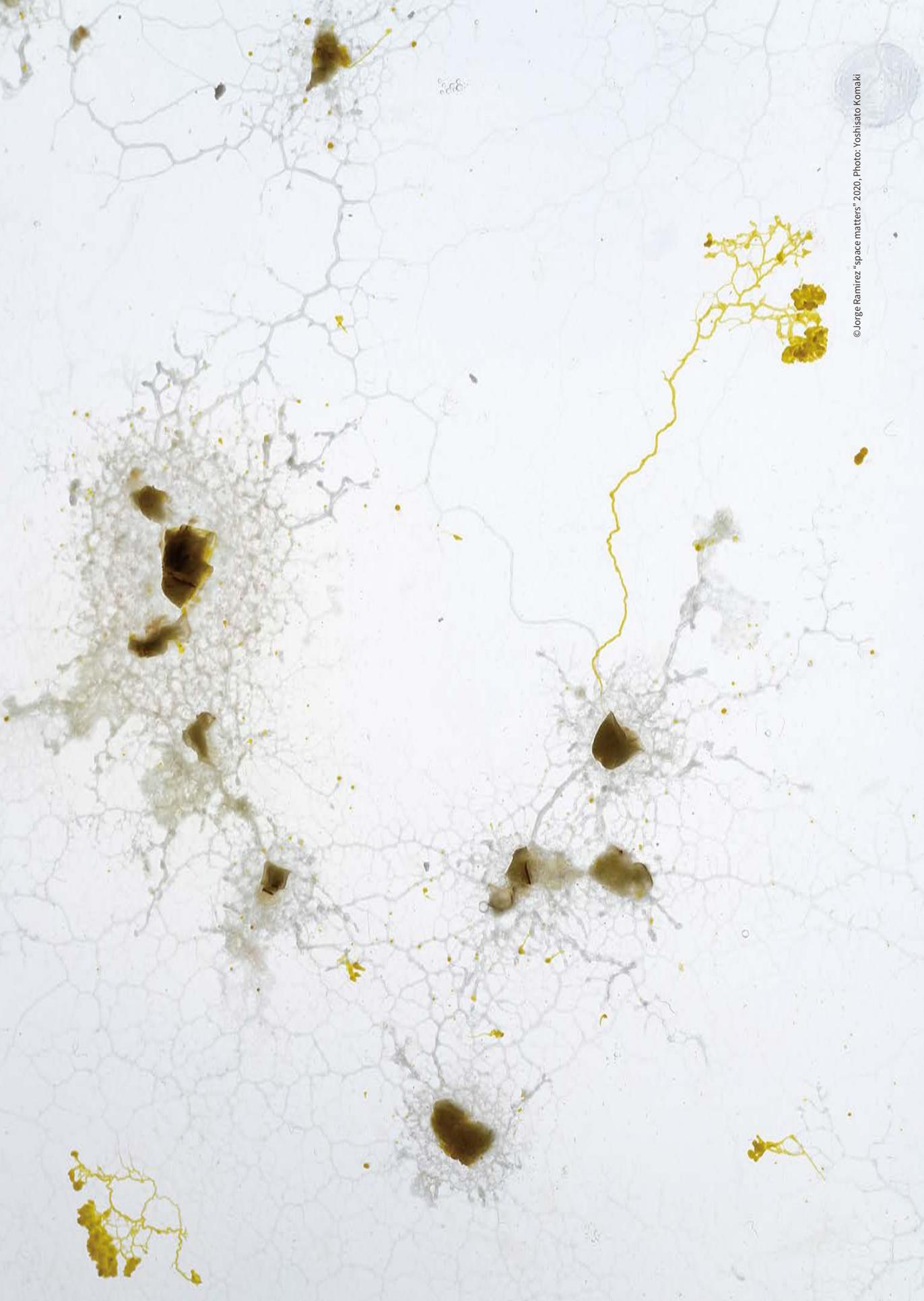


02

SAPPORO
TENJINYAMA
ART STUDIO
ANNUAL REPORT
Part.02

(April 2019 - March 2020)

さっぽろ天神山アートスタジオ 2019年度記録集 Part.02



Artist in Residence, Pandemic and Ikkyu-san

パンデミックのアーティスト・イン・レジデンスと一休さん

Artist in residence is “a structure that promotes artists’ movement”. The business of *Artist in residence* is “to promote the movement of artists, and to provide artists opportunities to stay and produce artworks in different places from their usual base and to create diverse learning opportunities”. The aim is to support the creative activities of artists in the same spirit as providing scholarships. By receiving this support, the artists can improve their careers, delivering and sustaining high-quality content in a wide range of cultural fields. As such *Artist in residence* is regarded as an infrastructural component of cultural practitioners.

The global coronavirus pandemic has caused restrictions on crossing borders as well as domestic movement. Under these present circumstances, we are actively discussing how to reconstruct the definition of *Artist in residence* with those from Japan and the rest of the world. The form of *Artist in residence* which gave artists opportunities of moving (place and time), has existed since the 16th century as “Mobility” is an effective means to develop creativity in artists. *Artist in residence* is “a structure that promotes artists’ movement”.

It is important to keep in mind that the aims of *Artist in residence* are to support the creative activities of artists in the same spirit as providing scholarships, and as an infrastructure, to deliver and sustain high-quality content in the field of art and culture. Therefore, in terms of these goals of the *Artist in residence*, our current discussions focus on how to reach the point where a new style of *Artist in residency* is possible, one that creates a platform to provide the mental and financial support for artists, an alternative way to stay and work in a residency, with a variety of learning opportunities for artists and local people. We can’t do the same as before because the world has changed. In order to overcome the “global restriction on movement” we have never experienced before, I am thinking why movement is important to artists’ needs: by moving (travelling), they experience this change in their condition, going from one state to another over a long period of time. When they can’t actually move, can a similar experience be recreated using other methods and tools? This could be done by means of a witty idea like Ikkyu-san would make, but I would rather like to try a creative expansion on the definition of *Artist in residence*.

The activities of *Artist in residence* should not be stopped because it is an essential component for people in the field of arts and culture. *Artist in residence* is the infrastructure that supports people’s lives. Human intelligence and creativity are necessary to overcome this crisis. The required stance (which is also my preference) so as to be able to manage and maintain the *Artist in residence* is to try and continue being a structure of “supports for artists” in a different way. This can be achieved by throwing away the methods that have been used up until now. By supporting artists, we are creating a bridge to the future to make a liveable world after the coronavirus.

アーティスト・イン・レジデンスは、「アーティストの移動を促進するしくみ」であり、アーティスト・イン・レジデンス事業は「アーティストの移動を促し、アーティストに普段の拠点とは異なる場所での滞在制作や多様な学びの機会を提供する」ものである。その目的は、アーティストの創造的活動を奨学金提供と同様の精神で支援するためにある。この支援により、支援対象となるアーティストは、自身のキャリアアップを図る、そして広く文化芸術分野に良質なコンテンツを増やす（絶やささない）ために活動するため、アーティスト・イン・レジデンス事業は分野のインフラに位置付けられている。

コロナによる世界パンデミックにより、国境を越えた、またドメスティックな移動に制限が発生している現在、アーティスト・イン・レジデンス分野では、国内、世界各地で、アーティスト・イン・レジデンスの定義の再構築に関する活発な議論が重ねられている。アーティストの創造的發展には「移動-mobility-」が有効に働くことから、アーティストに移動のチャンス（時間と場所）を支給するアーティスト・イン・レジデンスが16世紀から存在する。

繰り返しになるが、アーティスト・イン・レジデンスの目的である、アーティストの創造的活動を奨学金提供と同様の精神で支援すること、そして文化芸術分野のインフラとして良質なコンテンツを増やす（絶やささない）こと、が重要なのであって、物理的な移動に制限があるパンデミックの中にあっても、アーティストに対する精神的、経済的な支援、滞在型制作の新たな手法、アーティスト及び地域の人々のための多様な学びの場と機会の創出を踏まえた新しいアーティスト・イン・レジデンスの実施が可能であるという実験的な着地点に辿り着こうとしている。これまでと同じことはできないのだから、世界が変わったのだから。かつて経験したことのない「世界的な移動の制限」をいかに乗り越えるかは、アーティスト・イン・レジデンスに限らず普遍的なチャレンジとなるだろう。アーティスト・イン・レジデンスにおいてアーティストに移動が必要な理由の本質は、「移動する（旅する）ことによって、ある状態から長い時間をかけて別の状態に変わるような体験」を得ることであるから、実際の移動ができないならそれに替わる同等の体験を新しい方法やツールを活用して提供することで置き換えられないか、というような、やや頓智があった、でもクリエイティブな定義の拡張を試みたい。

文化芸術が人々に生きる力をもたらしていること、アーティスト・イン・レジデンスがその文化芸術分野のインフラであることから巡って人々が生きていくことを支えているのだからアーティスト・イン・レジデンスの活動を止めないことだ。危機をまた乗り越えるのも、人知であり、クリエイティビティにほかならない。つまり、いまここで、これまでの手法を捨てなんとか方向転換を図り、「アーティストへの支援」に踏みとどまって続けていくことが、最も求められる（いや、私が好む）アーティスト・イン・レジデンスのホストの姿勢だと考える。

アーティストを支援することは、パンデミックに生きる私たちが、未来に渡るための橋をつくるのと同じだからだ。

Artists & Events Record

2019年度滞在アーティストデータ

滞在アーティスト

アーティスト名 (日本語表記) / アーティスト名 (アルファベット表記) / 活動拠点 / 国籍 / 活動分野 / 活動内容

イベント

日時 / イベント種類 (公開制作 / アーティスト・トーク / 写真展 / 滞在成果展 / ワークショップ等) / タイトル / アーティスト名

2019
04
April



2019年4月21日(日)

Art&Breakfast / Art&Breakfast Day 4月



2019年4月21日(日)

アーティスト・トーク / A&B 4月アーティスト・トーク / Meryem Meg



2019年4月25日(木)

展示 / リマインダー / Meryem Meg



2019年4月26日(金)

アーティスト・トーク / Meryem Meg アーティスト・トーク / Meryem Meg

マリーナ・ウラ / Ura, Marina / 台湾 / 台湾 / 映像 / 創作活動

樫尾 聡美 / Kashio, Satomi / 浦幌町 / 日本 / 美術 / 創作活動

ミリアム・メグ / Meg, Meryem / イギリス / ブルガリア、アルジェリア / 美術、デザイン / 創作活動、リサーチ、展示

青木 真莉子 / Aoki, Mariko / 東京都 / 日本 / 美術 / 展示「シラナイアミフ」 / 眺望ギャラリー テラス計画

渡辺 豊 / Watanabe, Yutaka / 東京都 / 日本 / 美術 / 展示「シラナイアミフ」 / 眺望ギャラリー テラス計画

長坂 有希 / Nagasaka, Aki / 大阪府 / 日本 / 美術 / 展示「大地の物語」 / 500m 美術館

荒木 悠 / Araki, Yu / 東京都 / 日本 / 美術、映像 / 展示「大地の物語」 / 500m 美術館

山田 良 / Yamada, Ryo / 札幌市南区 / 日本 / 美術、デザイン / リサーチ、その他

天野 祐子 / Amano, Yuko / 東京都 / 日本 / 写真、映像 / 展示「大地の物語」 / 500m 美術館

早川 裕太 / Hayakawa, Yuta / 東京都 / 日本 / 美術 / 展示「大地の物語」 / 500m 美術館

奥野 正次郎 / Okuno, Shojiro / 東京都 / 日本 / デザイン / 展示「大地の物語」 / 500m 美術館

大城 夏紀 / Oshiro, Natsuki / 神奈川県 / 日本 / 美術 / 展示「Retro Machinism 懐古的機械主義」 / Toovcafe

ベッカ / Bekah / チェコ / アメリカ / 美術、デザイン / 創作活動

小宮 広子 / Komiyama, Hiroko / イタリア / 日本 / 音楽 / 北海道舞踏フェスティバル 2019

竹之内 淳志 / Takenouchi, Atsushi / イタリア / 日本 / 舞踏 / 北海道舞踏フェスティバル 2019

岡田 明彦 / Okada, Akihiko / 京都府 / 日本 / 工芸 / リサーチ

池田 なみ / Ikeda, Nami / 東京都 / 日本 / 音楽 / リサーチ、公演

山田 良 / Yamada, Ryo / 札幌市南区 / 日本 / 美術、デザイン / リサーチ、その他

曾我 英子 / Soga, Eiko / イギリス / 日本 / 美術 / 創作活動、リサーチ

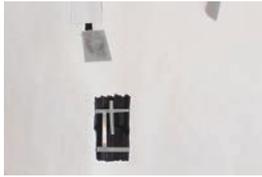
熊谷 周三 / Kumagai, Shuzo / 大分県 / 日本 / 美術 / リサーチ

ニコラ・ブラー / Boulard, Nicolas / フランス / フランス / 美術 / 創作活動、リサーチ

阿部 裕介 / Abe, Yusuke / 東京都 / 日本 / 写真 / その他

白濱 雅也 / Shirahama, Masaya / 他 1 名 / 豊頃町 / 日本 / 美術 / 展示「Retro Machinism 懐古的機械主義」 / Toovcafe

2019
05
May



堀切 春水 / Horikiri, Harumi / 山梨県 / 日本 / 美術 / その他

マリ・シーリン / Marit-Shirin, Carolasdotter / スウェーデン / スウェーデン / ダンス / 公演「人間と土」 / さっぽろ自由学校「遊」

森 洋子 / Mori, Yoko / 函館市 / 日本 / 音楽 / リサーチ

松井 紫朗 / Matsui, Shiro / 京都府 / 日本 / 美術 / ワークショップ
「手に取る宇宙」 / さっぽろ天神山アートスタジオ

〔劇団〕 鴉座 / Kamomeza / 9名 / 東京都 他 / 日本 / 演劇 / 公演「火曜日にはスーパーへ」「HER VOICE」 / シアター ZOO

ジェシカ・スミス / Smith, Jessica / アメリカ / 美術 / リサーチ

〔劇団〕 渡辺源四郎商店 / Watanabe Genshiro Shoten / 13名 / 青森県 他 / 日本 / 演劇 / 公演「背中から40分」 / シアター ZOO

戸谷 文香 / Toya, Ayaka / 愛知県 / 日本 / 美術、デザイン / 創作活動

ラケル・フォンタロサ / Fontarosa, Raquel / スペイン / スペイン / 美術、写真 / 創作活動、リサーチ、展示

桂 勘 / Katsura, Kan / 京都府 / 日本 / ダンス / 北海道舞踏フェスティバル 2019

アンブラ・バーガマスコ / Bergamasco, Ambra / イタリア / イタリア / ダンス / 北海道舞踏フェスティバル 2019

フィリップ・オブ・レイ / Ob Rey, Philip / アイスランド / フランス / 美術 / リサーチ

アレックス / Alex / アイスランド / スペイン / 美術 / リサーチ

大内 厚雄 / Ouchi, Atsuo / 東京都 / 日本 / 演劇 / 公演「利那 イ」 / 生活支援文化施設コンカリーニョ

亀倉 知恵 / Kamekura, Chie / 東京都 / 日本 / 美術 / 創作活動、リサーチ

陸 佩燕 / Lu, Terri / 他 7名 / 上海 / 中国 / 美術 / 創作活動

下道 基行 / Shitamichi, Motoyuki / 他 2名 / 愛知県 / 日本 / 美術 / トーク、ワークショップ「14歳と世界と境」 / Toovcafe

柴 一平 / Shiba, Ippei / 東京都 / 日本 / ダンス / 北海道舞踏フェスティバル 2019

椎名 亜希子 / Shiina, Akiko / 埼玉県 / 日本 / その他 / その他

2019年5月5日(日)
ワークショップ / 手に取る宇宙 / 松井紫朗



2019年5月15日(水)
イベント / 水曜シェアリング / Nicolas Boulard



2019年5月19日(日)
Art&Breakfast / Art&Breakfast Day 5月



2019年5月19日(日)
アーティスト・トーク / ニコラ・ブラー アーティスト・トーク / Nicolas Boulard



2019年5月26日(日)
展示 / 天神山駐留創作 / Lu Terri 他



2019
06
June



2019年6月5日(水)
イベント / 水曜シェアリング

2019年6月16日(日)

Art&Breakfast / Art&Breakfast Day 6月



2019年6月16日(日)

アーティスト・トーク / A&B 6月アーティスト・トーク / 亀倉知恵



2019年6月22日(土)
落雷の影響により臨時休館

2019年6月25日(火)

旭岳遠足



2019年6月29日(土)

イベント / 第6回天神山文化祭 2019



2019年6月29日(土)

展示 / アートプレート展



マイケル・リザウ / Litzau, Michael / アメリカ / アメリカ / 美術 / 創作活動、リサーチ

ニール・ホール / Hall, Neal / アメリカ / アメリカ / 文芸 / 講演
「ニール・ホール氏 詩の朗読会」 / 藤女子大学

マッテオ・ビエッラ / Biella, Matteo / イタリア / イタリア / 美術 / 創作活動、リサーチ

レンツォ・ビエッラ / Biella, Renzo / イタリア / イタリア / 美術 / 創作活動、リサーチ

詞人 くまさん / Kotobabito, Kumasan / 洞爺湖町 / 日本 / 美術 / 創作活動

佐藤 周作 / Sato, Shusaku / 東京都 / 日本 / 美術 / 展示「命の環」 / JRタワーホテル日航札幌

フーチア・ダンス・シアター / Huchia Dance Theatre / 5名 / 台湾 / 台湾 / ダンス / 北海道舞踏フェスティバル 2019

鷺田 めるろ / Washida, Meruro / 石川県 / 日本 / 美術 / シンポジウム
「文化多様性は何をめざすのか ミュージアムと考える、新時代」 / 北海道大学

シド・マリークラーク / Murray-Clark, Sidd / 他7名 / 東京都 / 日本 / 美術 / 創作活動、リサーチ、その他

レベッカ・ハーマン / Herman, Rebecca / アメリカ / アメリカ / 美術 / 創作活動、リサーチ

マーク・ショフナー / Shoffner, Mark / 他1名 / アメリカ / アメリカ / 美術 / 創作活動、リサーチ

佐藤 香 / Sato, Kaori / 福島県 / 日本 / 美術 / リサーチ

磯崎 道佳 / Isozaki, Michiyoshi / ニセコ町 / 日本 / 美術 / 展示
「ほんごうしんじゅりん」 / 本郷新記念札幌彫刻美術館

松田 朕佳 / Matsuda, Chika / 長野県 / 日本 / 美術 / 展示「足の生えた目
顔の遊ぶ庭 耳穴ガーランド」 / さっぽろ天神山アートスタジオ

大石 康子 / Oishi, Yasuko / 東京都 / 日本 / 美術 / その他

青葉 市子 / Aoba, Ichiko / 東京都 / 日本 / 音楽 / ライブツアー
「waterless」

マヒトゥ・ザ・ピーポー / Mahi To The People / 東京都 / 日本 / 音楽 / ライブツアー
「waterless」

安齋 伸也 / Anzai, Shinya / 蘭越町 / 日本 / 音楽 / 公演

2019
07
July

7月1日～16日
改装工事のため休館

佐藤 香 / Sato, Kaori / 福島県 / 日本 / 美術 / リサーチ

田中 博 / Tanaka, Hiroshi / 旭川市 / 日本 / 写真 / リサーチ

アグネス・ブラマー / Prammer, Agnes / 他2名 / オーストリア / オーストリア / 美術、写真 / 創作活動、リサーチ

シルビア・レンダ / Renda, Silvia / スペイン / イタリア / 美術、写真、デザイン / 創作活動、リサーチ

ラケル・フォンタロサ / Fontarosa, Raquel / スペイン / スペイン / 美術、写真 / 創作活動、リサーチ

鈴木 悠哉 / Suzuki, Yuya / 札幌市中央区 / 日本 / 美術 / 展示
「BENZAKURA PARK ART ANNUAL 2019『ブライアンを忘れない』」 / 紅桜公園

マッテオ・ビエッラ / Biella, Matteo / イタリア / イタリア / 美術 / 創作活動、リサーチ

ヴェラドン / Velladon / 大阪府 / 日本 / 音楽 / 創作活動、リサーチ

木沢 真紀子 / Kizawa, Makiko / 愛知県 / 日本 / 音楽 / 公演

桑原 真理子 / Kuwahara, Mariko / オランダ / オランダ / 美術 / 講演「『バーニング・ラブ』出版記念トーク」 / 美津 (夕張)

吉川 永祐 / Kikkawa, Eisuke / 石川県 / 日本 / 美術、写真 / リサーチ

高木 智章 / Takagi, Tomoaki / 札幌市豊平区 / 日本 / 美術、写真、デザイン / 創作活動

ディーノ・リップ / Rib, Dino / 香港 / 香港 / 美術、写真、映像 / 創作活動、リサーチ

ユー・ジャン / Zhan, Yu / オランダ / 中国 / 美術、写真、映像 / 創作活動、リサーチ、公演

マティアス・ファンク / Funk, Mathias / オランダ / ドイツ / 美術、写真、映像 / 創作活動、リサーチ、公演

磯崎 道佳 / Isozaki, Michiyoshi / ニセコ町 / 日本 / 美術 / その他

張 小船 / Boat Zhang Xiaochuan / 上海 / 中国 / 美術 / 展示
「BENZAKURA PARK ART ANNUAL 2019『ブライアンを忘れない』」 / 紅桜公園

小林 耕二郎 / Kobayashi, Kojiro / 東京都 / 日本 / 美術 / 展示
「BENZAKURA PARK ART ANNUAL 2019『ブライアンを忘れない』」 / 紅桜公園

福田 真知 / Fukuta, Masakazu / 滋賀県 / 日本 / 美術、写真、映像 / 創作活動、リサーチ、その他

桂 勘 / Katsura, Kan / 他7名 / 京都府、北京他 / 日本他 / ダンス / ワークショップ「舞踏の淵源・戦後日本の前衛芸術と伝統芸術の間」 / さっぽろ天神山アートスタジオ



2019年7月18日(木)
展示 / 足の生えた目 顔の遊ぶ庭 耳穴ガーランド / 松田朕佳

2019年7月21日(日)
Art&Breakfast / Art&Breakfast Day 7月



2019年7月21日(日)
アーティスト・トーク / A&B 7月アーティスト・トーク / Silvia Renda、桑原真理子



2019年7月26日(金)
イベント / ディナーミーティング / Silvia Renda

2019 08 August

2019年8月4日(日)
ワークショップ / 舞蹈ビデオレ
クチャー / 桂勘



2019年8月6日(火)
展示 / new timeline / 福田真知



2019年8月7日(水)
パフォーマンス / サマーキャン
プ発表会と舞蹈公演 / 桂勘、田
仲ハル 他



2019年8月7日(水)
イベント / 水曜シェアリング / Matteo Biella



2019年8月12日(月)
展示 / See-scape 目にみえる
景色、目にみえる風景 / Dino Rib



2019年8月14日(水)
アーティスト・トーク / Yu
Zhang, Mathias Funk アー
ティスト・トーク / Yu Zhang,
Mathias Funk



2019年8月18日(日)
Art&Breakfast /
Art&Breakfast Day 8月

2019年8月18日(日)
アーティスト・トーク / A&B
8月アーティスト・トーク /
Gillian Kayrooz



2019年8月23日(金)
上映会 / timelake- シングルス
クリーン / 取りまく息を吐く瞬
間 - / 福田真知 他



2019年8月23日(金)
展示 / Echoes In Soft Spaces
/ Gillian Kayrooz



2019年8月29日(木)
展示 / SUNSITIVE /
Raquel Fontarosa



2019年8月31日(土)
アーティスト・トーク / アー
ティストがみた北海道と炭鉱・
夕張とはなにか / 永岡大輔、山
口一樹 他



曾我 英子 / Soga, Eiko / イギリス / 日本 / 美術 / 展示「たけとり」/
CAI02

ジリアン・ケイルーズ / Kayrooz, Gillian / オーストラリア / オース
トラリア / 美術、写真、映像 / 創作活動、展示

森 洋子 / Mori, Yoko / 函館市 / 日本 / 音楽 / その他

木沢 真紀子 / Kizawa, Makiko / 愛知県 / 日本 / 音楽 / 公演

小林 大賀 / Kobayashi, Taiga / 札幌市南区 / 日本 / 美術、映像、
デザイン / 創作活動

萩尾 憲治 / Hagio, Kenji / 他1名 / 東京都 / 日本 / 美術 / 創作活動

福田 真知 / Fukuta, Masakazu / 滋賀県 / 日本 / 美術、写真、映像 /
創作活動、リサーチ、その他

山西 杏奈 / Yamanishi, Anna / 京都府 / 日本 / 美術、工芸 / リサーチ

池田 剛介 / Ikeda, Kousuke / 京都府 / 日本 / 美術、工芸 / リサーチ

ヨンミ・リー / Lee, Young-mi / 韓国 / 韓国 / 文芸 / その他

パク・ミンギル / Park, Min Kil / 韓国 / 韓国 / 文芸 / その他

鈴木 雅明 / Suzuki, Masaaki / 他2名 / 愛知県 / 日本 / 美術 / 展示
「Grafting 接ぎ木」 / なえぼのアートスタジオ

加藤 巧 / Kato, Takumi / 岐阜県 / 日本 / 美術 / 展示「Grafting
接ぎ木」 / なえぼのアートスタジオ

渡部 直子 / Watabe, Naoko / 神奈川県 / 日本 / 美術 / 創作活動、
リサーチ

ヨンチア・チャン / Chang, Yoong Chia / 他1名 / マレーシア /
マレーシア / 美術 / その他

永岡大輔 / Nagaoka, Daisuke / 神奈川県 / 日本 / 美術 / 講演「アー
ティストトーク！アーティストがみた北海道と炭鉱・夕張とはなにか。」/
さっぽろ天神山アートスタジオ

〔劇団〕道産子男闘呼倶楽部 / Dosankootokoclub / 5名 / 東京都
他 / 日本 / 演劇公演「雪虫」 / シアター ZOO

栗栖 マキ / Kurisu, Maki / 白老町 / 日本 / その他 / その他

山口一樹 / Yamaguchi, Kazuki / 夕張市 / 日本 / 写真 / 講演「アー
ティストトーク！アーティストがみた北海道と炭鉱・夕張とはなにか。」/
さっぽろ天神山アートスタジオ

2019
09
September

9月1日～10月31日
改装工事のため休館



浴場プロジェクト（夕張）サポート



深澤 優子 Fukasawa Yuko

施設管理、経理担当。時々天神山 on AIR にパーソナリティとしても登場。ほぼ毎日、朝から夕方までの間は天神山アートスタジオにいます。天神山のスタッフですが、ミュージシャンでもあります。短くて楽しいポップスを作っては札幌・日本のどこかで演奏しています。札幌市内の音楽についての質問は深澤まで。ほんの少しお助けできるかもしれません。

「滞在アーティストとキッチンですちょっとした挨拶、世間話が好きです。北海道・札幌・天神山にきて何をしてどう感じたのか、直接そのことについて話題にならなくても感じ取れることがあったり。普段自分が考えたこともないようなことをなげなく共有してくれるのって本当にありがたいな、と思います。」



五十嵐 千夏 Igarashi Chinatsu

事務一般、海外からの滞在アーティストへの日常の言語補助（英語）などを担当しています。交流プログラムでのアーティスト・トークなど、施設内イベントでの通訳を担当することもあります。個人の活動として、大学の通信教育課程と地域の社会教育プログラムを通して絵画制作および芸術文化政策を勉強しています。ドナルド・ジャッドとジャッド財団の活動等に関心があります。

「海外から当館を訪れるアーティストのバイタリティにはしばしば圧倒されます。多くが初来札で日本語も知らないなか、天神山のスタッフと協力しながら、来館前から続く綿密な調査と地元市民・アーティストとの交流を重ね滞在を充実させていくのです。その真摯な視線は、滞在成果展や天神山でのイベントで目撃することができるでしょう。」



小林 大賀 Kobayashi Taiga

映像、木工作业から玉ねぎのみじん切りまで、ジャンルにとらわれないコーディネートを行っている。天神山では主にドキュメント映像と制作サポートを行う傍、自身の作品制作に頂けるアイデアはないかと虎視眈々としているが、パフォーマーとしてのポーカーフェイスで悟られまいとしている。ところどころデタラメな英語を操り、言語コミュニケーションにおける非言語コミュニケーションの実践に関心がある。www.taigakobayashi.com

「よく夜番で入るのですが、ウンディネさんは夜食をシェアしてくれたり優しかったなあ。アドルونتとはラーメンやラーメンさんの話ばかりしていました。天神山では食を囲むイベント多く、滞在者同士はもちろん、スタッフや一般の方々も和気あいあいとしますね。明日のために、食うべし、食うべし（古い）。」



花田 悠樹 Hanada Yuuki

昨年の11月より非常勤スタッフとして加わった花田です。年齢23で業務も人生も未熟者ですが何卒よろしくお願ひします。2017年に7ヵ月をかけた北海道府県踏破しているのがご当地トークはそれとなく合わせられるのが特技です。マイブームはギターとアウトドア。好物は珈琲とクラフトビール。もし美味しいものを札幌市内でお探したら何なりとお申し付けくださいませ。

「北海道という雄大な土地のせいか、一癖も二癖もある面々が集う天神山アートスタジオ。その脇には花壇とも畑とも言い難い小さな土壌を抱えます。今年の夏はどんな作物が実るのか。土と触れ合いながらここ天神山の土壌も耕していきますので、自然溢れる天神山をぜひ覗きにきてくださいな。」

2019
10
October

9月1日～10月31日
改装工事のため休館
網走市内での滞在制作成果発表展開催



SAPPORO TENJINYAMA ART STUDIO / Staff



山田 大揮 Yamada Hiroki

制作の相談や成果展の展示設営を中心に、広報や日常のことのお手伝いもやっていました。美術家としても活動しているほか、フリーのデザイナーでもありまして、天神山でもよくチラシなどを作ったりしていました。喫茶店と読書が好きです。最近はフェミニズムのことを勉強しなっています。2020年4月からは、札幌文化芸術交流センター SCARTSにてテクニカルスタッフとして楽しくやっています。

「日々を日常と非日常とに分けて考えることができますが、その二分法から漏れ出るように、日常のなかに豊かな状況が溢れています。本当に、2年働いた天神山から離れ、そのことに気付かされました。それは口内炎に苦しんでいる最中の食事のときのようなです。いつもは気づかなかったけれど、どれほど幸せなことだったか!」



漆 崇博 Urushi Takahiro

天神山の管理運営団体の代表として、主に札幌市や札幌国際芸術祭との運営上のやりとりや、管理運営全体の調整役を担っています。他の事業でも、北海道内外でアーティスト・イン・スクールを始めとするアートプロジェクトやイベントの運営・コーディネートをすることが多く、アートを通じて、人と人、人と場をつなぐことに日々精進しています。将来は、様々な価値と人が集い学び合う、既存の制度の枠組みにはない学校のような場所を創ることが目標です。一般社団法人 AIS プランニング <https://ais-p.jp/>

「天神山には、自ら機会を作って何度も滞在するアーティストが年々増えています。同時に、この場で知り合ったアーティスト達が別な地域で共同する機会も増えています。創作の過程や生活を共にする滞在者同士の自然な交流を促す環境と交流プログラムが機能しているようです。天神山の日常には、思いもよらない展開を生む出会いが確実に存在しています。」



関根 ちあみ Sekine Chiami

2018年度から2年間、申請書受付、英語対応をしていました。2020年2月に渡米。現在は、ニューヨークでアーティスト・イラストレーターとして作家活動をしています。天神山でも黒板をつかったインフォメーション、イラストレーションマップの制作していました。外出制限が出ている状況下で、絵本を制作しています。

「沢山の才能溢れるアーティストの作品を感じることができる天神山は、交差点のような場所でした。一瞬交わって、それぞれの方向に進んでいきます。その一瞬を輝かせることができるのが、天神山とアートの力のような気がします。」



小林 亮太郎 Kobayashi Ryotaro

主に申請業務と地域交流事業を担当しています。天神山に滞在するアーティストを市内の小学校に連れて行ったり、商店街の飲み会と一緒に参加したり、庭で植物を育てたりしています。また天神山 onAIR というラジオ形式の滞在者の紹介動画も作って YouTube につけています。秋には地域のまちづくり会と共催で天神山文化祭というイベントを初年度から毎年実施しています。得意なことはサッカーで、日本酒が好きです。ロシア語、韓国語、英語の対応ができます。

「天神山には1年を通して、全国・海外の色々な人がやってきます。多様性という言葉がありますが、それはここに来ると実感できると思います。あと、英語の勉強にもなります。」



小田井 真美 Odai Mami

国内のAIR事業及び創造環境の設計に携わる。NPO S-AIR、ARCUS Project、IBARAKI、さっぽろ天神山アートスタジオではAIR事業運営を担う。アーティストとキュレーターでもなくギャラリストでもなくともにいる仕事がしたいとアートイベントの企画に始まり、国際芸術祭などいろいろ試してAIRに行き着く。次々やってくるアーティストが示すすべてのお題をいつまでも勉強中。テレビ時代劇と時代劇小説が唯一の趣味、終活が目下の課題。

「2020年度は、、変わっていく世界で移動ができるアーティスト、国内だけなのかな、それとも札幌圏のアーティストの小さな移動によるレジデンスのような創造環境とチャンスをつくってみたいと考えています。不思議の遠眼鏡で、懐かしいけどみたことのない新しい世界を覗くような。」

2019
11
November

ステファニー・ビショップ / Bishop, Stephanie / 他3名 / オーストラリア / オーストラリア / 文芸 / 2019年ネットワーキング事業 Asialink からの派遣アーティスト

南隆雄 / Minami, Takao / フランス / 日本 / 美術、映像 / 展示「ビデオインスタレーション 陰と像と陽」/ 網走市立美術館、「コレクションサーベイ」/ 北海道立北方民族博物館

ヴィンセント・デ・ブーア / De Boer, Vincent / オランダ / オランダ / 美術 / 展示「SUBJECTIVE OBSERVATIONS Vincent de Boer in Japan」/ なえぼのアートスタジオ

鈴木 淳 / Suzuki, Atsushi / 他1名 / 福岡県 / 日本 / 美術 / 展示「まなざしのスキップ」/ 札幌文化芸術交流センター SCARTS

飯川 雄大 / Iikawa, Takehiro / 他1名 / 兵庫県 / 日本 / 美術 / 展示「まなざしのスキップ」/ 札幌文化芸術交流センター SCARTS

浅井 真理子 / Asai, Mariko / 埼玉県 / 日本 / 美術 / 展示「内なる旅〜物に宿された記憶」/ 苫小牧美術博物館

磯崎 道佳 / Isozaki, Michiyoshi / ニセコ町 / 日本 / 美術 / リサーチ

張 小船 / Boat Zhang Xiaochuan / 上海 / 中国 / 美術 / 展示「たのしいなこのひ、たのしくないなこのひ」/ CAI02

小林 耕二郎 / Kobayashi, Kojiro / 東京都 / 日本 / 美術 / 展示「たのしいなこのひ、たのしくないなこのひ」/ CAI02

山下 恵利子 / Yamashita, Eriko / 香川県 / 日本 / 美術 / リサーチ

三輪 恭子 / Miwa, Kyoko / 神奈川県 / 日本 / 美術 / リサーチ

クリス・フィッツパトリック / Fitzpatrick, Chris / オーストラリア / オーストラリア / 美術 / 創作活動

ダニエル・ベッシオ / Pescio, Daniel / 京都府 / フランス / その他 / リサーチ

中山 夢歩 / Nakayama, Mubu / 東京都 / 日本 / 演劇 / 公演「中山夢歩一人芝居『』（無題）」/ サンピアザ劇場

〔劇団〕 ウンゲツィーフア / Ungeziefer / 4名 / 東京都 / 日本 / 演劇 / 公演「動く物」/ PECORANERA GALLERY

松田 朕佳 / Matsuda, Chika / 長野県 / 日本 / 美術 / 子どもの文化芸術体験事業おとどけアート / 札幌市立もみじの丘小学校

ミモサ・エチャード / Echard, Mimosa / フランス / フランス / 美術 / リサーチ

ホルヘ・ラミレス / Ramirez, Jorge / 他1名 / メキシコ / メキシコ / 美術 / 2019年度 UCCN AIR プログラム招聘アーティスト

〔劇団〕 メロトゲニ / Mellotogeni / 14名 / 東京都 他 / 日本 / 演劇 / 公演「こぼれた街と、朝の果て。〜その偏愛と考察〜」/ 演劇専用小劇場 BLOCH

白濱 雅也 / Shirahama, Masaya / 他1名 / 豊頃町 / 日本 / 美術 / 展示「女神と王子 一人で過ごす聖夜のために」/ FABULOUS



2019年11月17日(日)
Art&Breakfast / Art&Breakfast Day 11月



2019年11月17日(日)
アーティストトーク / A&B 11月アーティスト・トーク / Vincent de Boer



2019年11月23日(土)
イベント / ギャラリスト・ツアー 滞在アーティスト作品紹介



2019年11月30日(土)
イベント / ディナーミーティング



2019 12 December

2019年12月4日(水)
アーティスト・トーク / 関川航平 アー
ティスト・トーク / 関川航平



2019年12月7日(土)
ワークショップ / 小中学生向けワーク
ショップ「バイバイバイバイのパ」/
関川航平



2019年12月12日(木)
上映会 / 消失点と対位法 / Valerio
Belloni



2019年12月15日(日)
イベント / AIRのよろこびと悩み 現
場運営者の実践を共有する場と機会 _
AIR 勉強会 2019



2019年12月15日(日)
Art&Breakfast / Art&Breakfast Day
12月



2019年12月15日(日)
アーティスト・トーク / A&B 12月
アーティスト・トーク / Stephanie
Bishop



2019年12月16日(月)
アーティスト・トーク / 増山士郎 アー
ティスト・トーク 海外レジデンスの
お話 / 増山士郎



2019年12月25日(水)
イベント / 水曜シェアリング / クリスマスパーティー / Jorge
Ramirez

関川 航平 / Sekigawa, Kohei / 宮城県 / 日本 / 美術 / 小中学生向け
ワークショップワークショップ「バイバイバイバイのパ」講師 /
さっぽろ天神山アートスタジオ

パレリオ・ベッローニ / Belloni, Valerio / イタリア / イタリア /
美術、音楽、その他 / 創作活動、リサーチ、展示・公演

リアン・デュニック / Dunic, Leanne / カナダ / カナダ / 美術、音楽、
写真、映 / 創作活動・リサーチ

マルティナ・ザンボンニ / Zamboni, Martina / オランダ / オランダ /
美術、写真、その他 / 創作活動・リサーチ

菅野 幸子 / Kanno, Sachiko / 東京都 / 日本 / その他 / AIRのよろこび
と悩み 現場運営者の実践を共有する場と機会 _AIR 勉強会 2019 参加

勝冶 真美 / Katsuya, Mami / 京都府 / 日本 / その他 / AIRのよろこび
と悩み 現場運営者の実践を共有する場と機会 _AIR 勉強会 2019 参加

増山 士郎 / Masuyama, Shiro / その他 / AIRのよろこびと悩み 現場
運営者の実践を共有する場と機会 _AIR 勉強会 2019 参加

樋口 貞幸 / Higuchi, Sadayuki / 沖縄県 / 日本 / その他 / AIRのよろこ
びと悩み 現場運営者の実践を共有する場と機会 _AIR 勉強会 2019 参加

森 純平 / Mori, Junpei / 東京都 / 日本 / その他 / AIRのよろこびと
悩み 現場運営者の実践を共有する場と機会 _AIR 勉強会 2019 参加

八巻 真哉 / Yamaki, Shinya / 京都府 / 日本 / その他 / AIRのよろこび
と悩み 現場運営者の実践を共有する場と機会 _AIR 勉強会 2019 参加

村上圭一 / Murakami, Keiichi / 神奈川県 / 日本 / その他 / AIRのよろこ
びと悩み 現場運営者の実践を共有する場と機会 _AIR 勉強会 2019 参加

がらす庵 / Glass an / 兵庫県 / 日本 / その他 / AIRのよろこびと悩み
現場運営者の実践を共有する場と機会 _AIR 勉強会 2019 参加

内海 潤也 / Utsumi, Junya / 神奈川県 / 日本 / その他 / AIRのよろこび
と悩み 現場運営者の実践を共有する場と機会 _AIR 勉強会 2019 参加

東海林 慎太郎 / Tokairin, Shintaro / 東京都 / 日本 / その他 / AIRのよろ
こびと悩み 現場運営者の実践を共有する場と機会 _AIR 勉強会 2019 参加

遠藤 純一郎 / Endo, Junichiro / 東京都 / 日本 / その他 / AIRのよろこ
びと悩み 現場運営者の実践を共有する場と機会 _AIR 勉強会 2019 参加

石井 瑞穂 / Ishii, Mizuho / 茨城県 / 日本 / その他 / AIRのよろこびと
悩み 現場運営者の実践を共有する場と機会 _AIR 勉強会 2019 参加

橋本 麻希 / Hashimoto, Maki / 兵庫県 / 日本 / その他 / AIRのよろこび
と悩み 現場運営者の実践を共有する場と機会 _AIR 勉強会 2019 参加

甲斐 小夜子 / Kai, Sayoko / 日本 / その他 / AIRのよろこびと悩み
現場運営者の実践を共有する場と機会 _AIR 勉強会 2019 参加

志村 春海 / Shimura, Harumi / 宮城県 / 日本 / その他 / AIRのよろこび
と悩み 現場運営者の実践を共有する場と機会 _AIR 勉強会 2019 参加

栗栖 マキ / Kurisu, Maki / 白老町 / 日本 / その他 / AIRのよろこびと
悩み 現場運営者の実践を共有する場と機会 _AIR 勉強会 2019 参加

佐藤 帆乃香 / Sato, Honoka / 新潟県 / 日本 / その他 / AIRのよろこびと
悩み 現場運営者の実践を共有する場と機会 _AIR 勉強会 2019 参加

蔵田 典子 / Kurata, Noriko / 山口県 / 日本 / その他 / AIRのよろこび
と悩み 現場運営者の実践を共有する場と機会 _AIR 勉強会 2019 参加

中山 芳子 / Nakayama, Yoshiko / 北海道 / 日本 / その他 / AIRのよろこ
びと悩み 現場運営者の実践を共有する場と機会 _AIR 勉強会 2019 参加

廣瀬 利勝 / Hirose, Toshikatsu / 富良野市 / 日本 / 演劇 / 創作活動

鈴木 悠哉 / Suzuki, Yuya / 札幌市 / 日本 / 美術 / 創作活動、リサーチ

小林 大賀 / Kobayashi, Taiga / 札幌市 / 日本 / 美術、デザイン、
映像 / 創作活動

2020
01
January



2020年1月12日(日)
イベント / ディナーミーティング

2020年1月18日(土)
展示 / UCCN Program 招聘アーティスト ホルヘ・ラミレス 成果
発表展「Space Matters」/ Jorge Ramirez

2020年1月18日(土)
イベント / UCCN Program 招聘アーティスト ホルヘ・ラミレス
成果発表展オープニング・イベント / Jorge Ramirez, 三原聡一郎

2020年1月19日(日)
Art&Breakfast / Art&Breakfast Day 1月

2020年1月19日(日)
アーティスト・トーク / A&B 1月アーティスト・トーク / Min
Hwa Sung

2020年1月22日(水)
パフォーマンス / UCCN Program 招聘アーティスト ホルヘ・
ラミレス パフォーマンス イベント「Pulse: Live coding &
algorithmic music」/ Boring Threesomes(Jorge Ramirez),
Renick Bell

2020年1月29日(水)
イベント / 水曜シェアリング



張 小船 / Boat Zhang Xiaochuan / 上海 / 中国 / 美術 / 展示・公演

小林 耕二郎 / Kobayashi, Kojiro / 東京都 / 日本 / 美術 / 展示・公演

廣瀬 利勝 / Hirose, Toshikatsu / 富良野市 / 日本 / 演劇 / 公演
「虹と雪、慟哭のカッコウ〜 SAPPORO' 72」/ 札幌市民交流プラザ
クリエイティブスタジオ

矢島 佳澄 / Yajima, Kasumi / 埼玉県 / 日本 / その他 / ワークショップ
「乙女電芸部と札幌の冬を考えよう!展」/ 札幌文化芸術交流セン
ター SCARTS

今野 恵菜 / Konno, Keina / 山口県 / 日本 / その他 / ワークショップ
「乙女電芸部と札幌の冬を考えよう!展」/ 札幌文化芸術交流セン
ター SCARTS

奥出 えりか / Okude, Erika / 東京都 / 日本 / その他 / ワークショップ
「乙女電芸部と札幌の冬を考えよう!展」/ 札幌文化芸術交流セン
ター SCARTS

首藤 まり江 / Shudo, Marie / 東京都 / 日本 / その他 / ワークショップ
「乙女電芸部と札幌の冬を考えよう!展」/ 札幌文化芸術交流セン
ター SCARTS

川鍋 徹 / Kawanabe, Tohru / 東京都 / 日本 / その他 / ワークショップ
「乙女電芸部と札幌の冬を考えよう!展」/ 札幌文化芸術交流セン
ター SCARTS

スン・ミンワ / Sung, Min Hwa / 韓国 / 韓国 / 美術、写真 / 創作活動、
リサーチ

ホルヘ・ラミレス / Ramirez, Jorge / メキシコ / メキシコ / 美術 /
2019 年度 UCCN AIR プログラム招聘アーティスト

レニック・ベル / Bell, Renick / 東京都 / アメリカ / 美術 / 2019 年度
UCCN AIR プログラム招聘アーティストサポート

松田 朕佳 / Matsuda, Chika / 長野県 / 日本 / 美術 / 2019 年度国際
公募プログラムコーディネーター

アーノン・ノンヤオ / Nongyao, Arnont / タイ / タイ / 美術 / 2019
年度国際公募プログラム招聘アーティスト

ユン・ヌエン / Nguyen, Dung / ベトナム / ベトナム / 美術 / 2019
年度国際公募プログラム招聘アーティスト

西松 秀祐 / Nishimatsu, Shusuke / 大分県 / 日本 / 美術 / 第8回札幌
500m 美術館賞 / 札幌大通地下ギャラリー 500m 美術館

ウンディネ・ゾマー / Sommer, Undine / 他2名 / ドイツ / ドイツ /
美術 / 2019 年度国際公募プログラム招聘アーティスト

スロニーピクチャーズ / Slony Pictures / 2名 / フランス 他 / 映像 /
創作活動

清水 宏 / Shimizu, Hiroshi / 東京都 / 日本 / 演劇 / 公演「清水宏の
燃えるスタンダップコメディ〜世界を笑わせろ」/ シアター ZOO

川崎 勇人 / Kawasaki, Yuto / 東京都 / 日本 / 演劇 / 公演「虹と雪、
慟哭のカッコウ〜 SAPPORO' 72」/ 札幌市民交流プラザ クリエイティ
ブスタジオ

水津 聡 / Suitsu, Satoshi / 富良野市 / 日本 / 演劇 / 公演「虹と雪、
慟哭のカッコウ〜 SAPPORO' 72」/ 札幌市民交流プラザ クリエイティ
ブスタジオ

坂口 千秋 / Sakaguchi, Chiaki / 東京都 / 日本 / 美術 / 2019 年度
国際公募プログラムコーディネーター

三原 聡一郎 / Mihara, Soichiro / 京都府 / 日本 / 美術 / 2019 年度
国際公募プログラム審査員

ワン・ユージン / 王昱心 / Wang, Yu-hsin / 台湾 / 台湾 / 美術 /
2019 年度交換プログラム招聘アーティスト

樺山 智子 / Momiyama, Tomoko / 東京都 / 日本 / 音楽 / 2019 年度
自主事業 AIR プログラム招聘アーティスト

[劇団] ゴジゲン / Gojigen / 7名 / 東京都 他 / 日本 / 演劇 / 公演
「ポポリンピック」/ シアター ZOO

ニコラス・ロイ / Roy, Niklas / ドイツ / ドイツ / 美術 / 創作活動、
リサーチ

カティ・ヒッパ / Hyyppa, Kati / ドイツ / フィンランド / 美術 /
創作活動、リサーチ

白濱 雅也 / Shirahama, Masaya / 他1名 / 豊頃町 / 日本 / 美術 /
リサーチ

神谷 泰史 / Kamiya, Taishi / 東京都 / 日本 / 美術 / 展示「white
balance」/ salon cojica

カン・ミンヒョン / Kang, Minhyung / 韓国 / 韓国 / 美術、映像 /
2019 年度交換プログラム招聘アーティスト

リー・スウン / Lee, Sooeun / ドイツ / 韓国 / 美術、映像 / 2019 年度
交換プログラム招聘アーティスト

2020 02 February

2020年2月5日(水)
イベント / 水曜シェアリング



2020年2月12日(水)
イベント / 水曜シェアリング



2020年2月16日(日)
Art&Breakfast /
Art&Breakfast Day 2月



2020年2月16日(日)
アーティスト・トーク / A&B
2月アーティスト・トーク
/ ADRUNNOGNT, Yu-hsin
Wang, Undine Sommer



2020年2月19日(水)
イベント / 水曜シェアリング



2020年2月20日(木)
パフォーマンス / 鑑賞型イ
ベント「冷蔵庫での移動とエネ
ルギー図書館のプロジェクト」
ADRUNNOGNT



2020年2月21日(金)
アーティスト・トーク / ト
ークイベント「どうしてア
ーティストは札幌にくるのか？」
/ ADRUNNOGNT, Yu-hsin
Wang, 樺山智子



2020年2月22日(土)
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、札幌市感染症対策本部長の秋元克広市長により、札幌市が主催する不特定多数の集客を予定するイベントなどを当面3週間程度、原則中止、または延期すると決定。

2020年2月25日(火)
鈴木直道北海道知事は、2月25日の北海道感染症危機管理対策本部会議を経て、2月27日(木)から全道の小学校・中学校に一定期間臨時休校を要請。



2020年2月28日(金)
展示 / 2019- 2020 s(k)now
「雪・冬・北方圏」滞在成果発
表 Undine Sommer 展示「こ
の美しさにはもっと壮大な曲が
ふさわしい」/ Undine Sommer



2020年2月28日(金)
アーティスト・トーク / 展覧会と
トークイベント&交流会「2019-
2020 s(k)now「雪・冬・北方
圏」滞在成果発表」オープニ
ング・イベント / Minhyung Kang,
Soeun Lee, ADRUNNOGNT



ヨンミ・リー / 李榮美 / Lee, Young-mi / 韓国 / 韓国 / 文芸、その他 / その他

パク・ミンギル / Park, Min Kil / 他1名 / 韓国 / 韓国 / 文芸、その他 / その他

アマンダ・ガルバンフェン / Galvan Huynh, Amanda / アメリカ / アメリカ / 文芸 / 創作活動、リサーチ

西松 秀祐 / Nishimatsu, Shusuke / 大分県 / 日本 / 美術 / 2019年度国際公募プログラム招聘アーティストサポート

大木 裕之 / Oki, Hiroyuki / 高知県 / 日本 / 美術、映像 / 西2丁目地下歩道映像制作プロジェクト / 札幌文化芸術交流センター SCARTS

山本 高之 / Yamamoto, Takayuki / 愛知県 / 日本 / 美術 / 2019年度国際公募プログラム審査員

樺山 智子 / Momiyama, Tomoko / 東京都 / 日本 / 音楽 / 2019年度自主事業 AIR プログラム招聘アーティスト

[劇団] チェルフィツチュ / Chelfitsch / 7名 / 熊本県、東京都、他 / 日本 / 演劇 / 展示「風景、世界、アクシデント、すべてこの部屋の外側の出来事」 / 札幌文化芸術劇場 hitaru クリエイティブスタジオ

山内悠 / Yamauchi, Yu / 長野県 / 日本 / 写真 / リサーチ

ビクトル・セラノ / de la Fuente Serrano, Víctor / スペイン / スペイン / 美術、映像、その他 / 創作活動、リサーチ

大木 裕之 / Oki, Hiroyuki / 高知県 / 日本 / 美術、映像 / 西2丁目地下歩道映像制作プロジェクト / 札幌文化芸術交流センター SCARTS

長坂 有希 / Nagasaka, Aki / 大阪府 / 日本 / 美術 / 創作活動、その他

坂口千秋 / Sakaguchi, Chiaki / 東京都 / 日本 / 美術 / リサーチ、その他

2020年3月1日(日)

札幌市からの通知を受け、3月1日より、さっぽろ天神山アートスタジオの一般市民の利用を停止。滞在スタジオは通常通り稼働。

2020年3月1日(日)

アーティスト・トーク / 展覧会とトークイベント&交流会「2019-2020 s(k)now「雪・冬・北方圏」滞在成果発表」クロージング・イベント / 安田葉、Undine Sommer



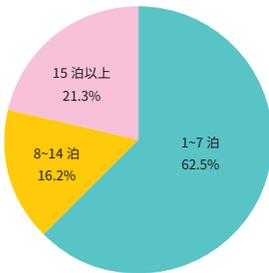
2020年3月4日(水)

イベント / 水曜シェアリング

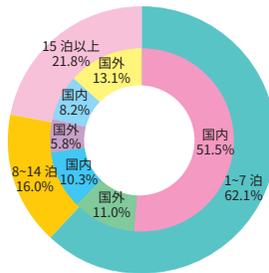


滞在スタジオ利用者データ (2019年度版)

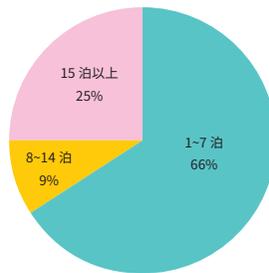
2019年度 滞在日数
(のべ291人)



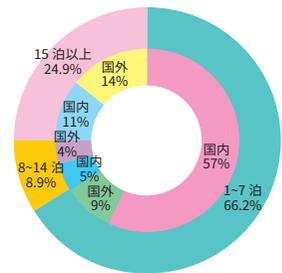
2019年度 滞在日数と活動拠点
(活動拠点国内・国外)



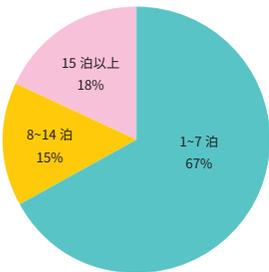
2018年度 滞在日数別
(のべ382人)



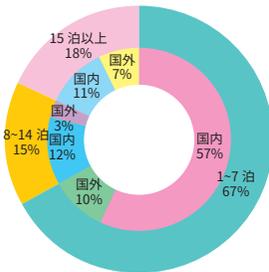
2018年度 滞在日数と活動拠点
(活動拠点国内・国外)



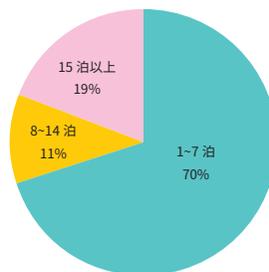
2017年度 滞在日数
(のべ407人)



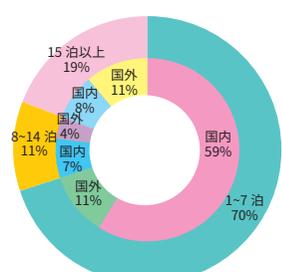
2017年度 滞在日数と活動拠点
(活動拠点国内・国外)



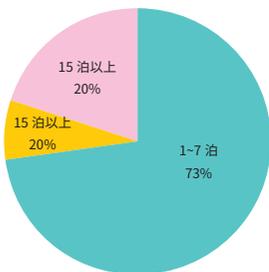
2016年度 滞在日数
(のべ416人)



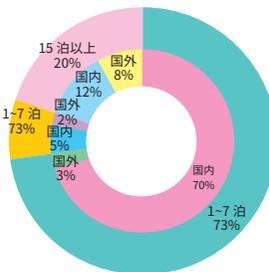
2016年度 滞在日数と活動拠点
(活動拠点国内・国外)



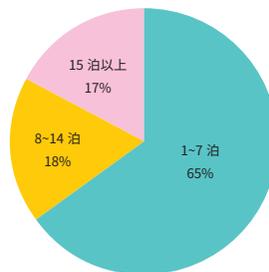
2015年度 滞在日数
(のべ391人)



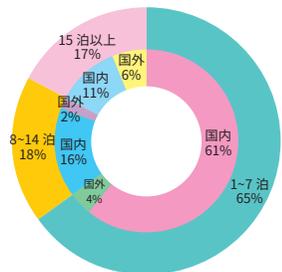
2015年度 滞在日数と活動拠点
(活動拠点国内・国外)



2014年度 滞在日数
(のべ188人)



2014年度 滞在日数と活動拠点
(活動拠点国内・国外)



Feedback from Artists 滞在したアーティストからの声

市民のみなさん、中高生のみなさんが（登録なども不要で）自由に入出りできる雰囲気がすばらしいです！ぜひ継続していただけたらと思います。（山田 良）

簡単な照明機材があれば小さな公演が可能だと思いました。施設面、環境面、スタッフの方の対応は素晴らしいと思います。（桂 勘）

レジデンスの環境、スタッフの方々の細やかな気遣い、全てにおいて最高でした。また是非、自身の制作活動において利用させていただける機会があれば大変有り難いです。（天野 祐子）

今回は展覧会の設営のための短期滞在でしたが、今後リサーチや勉強会などを含めた中長期の滞在を考えたいと思いました。ありがとうございました。（加藤 巧）

レジデンス施設としては国内屈指だと思います。世界の他のレジデンスとも変わらない質の高いものです。一方、一階のオープンスペースは小中学生から高齢の方まで様々な人たちが利用していますが、彼らとアートの接点がありません。朝新聞を読んでいるおじいさんがいたり、卓球やゲームをする中学生達。本がない図書館、先生がいない児童館といった感じでしょうか。彼らと同年代の人を対象にしたワークショップを行い（はじめは彼らを対象にするのではなく外部から募集する）、少しずつ彼らにもアートへの関心を持ってもらうというのはどうでしょう。天神山のミッションとはずれてしまうかもしれませんが、美術館とは異なるアートと触れるきっかけの場所になる可能性があると思います。もっとも、スタッフの皆さんの仕事が増えてしまうのは本意ではないですが、僕もお手伝いできることがあれば是非関わってきたいです。（山本 高之）

My stay at Tenjinyama has been already very pleasant so I have not much to add. I have one advice that could make artist's life in Tenjinyama more "like a family" feeling: Have the chance to have breakfast together everyday. When I was in my first residency in China I had breakfast provided by the organization from 8 to 10 am. I remember it as a great chance to grow friendships, learn deeply about people and other artists personal life and activity, their lives etc etc. It was a great way to meet and do something together later in the day, which was organized right during breakfast. You could make this as a complimentary package somehow paid within the fee or as an option that artist can choose from, with a little fee. For the rest, thank you for your effort, I have spent very blissful days in Sapporo this year. Hopefully I will come back again! (Matteo Biella)

You guys are all perfect! I love you all! (Wong Lok Hin, Dino)

The staff at Tenjinyama are the best and I couldn't have wished for a better experience! (Gillian Kayrooz)

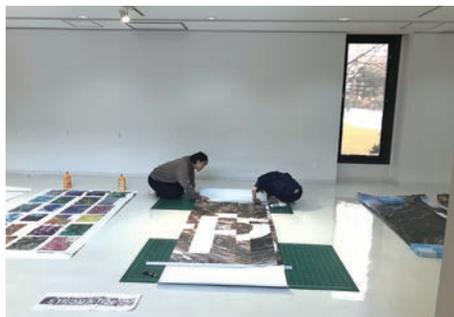
At the moment I have no requests, but I would like to keep in contact and communicate with the staff about the results of my projects by January 2020. (Silvia Renda)

It was outstanding experience and very helpful staff. (Jorge Ramirez)

～ 2019 年度 滞在スタジオ利用者アンケートより

滞在アーティストのインタビュー、天神山 on AIR 動画は、YouTube チャンネルから視聴できます。

https://www.youtube.com/channel/UCtvZE3iOdYpwx_T_n1u6_Hg/videos



Migratory Birds or Salmons

渡りの鳥か、カムバック、サーモンのように。

2014年5月の開館以来、国内外から多くのアーティストがさっぽろ天神山アートスタジオに滞在し、札幌・北海道との縁を結んできた。さっぽろ天神山アートスタジオの自主事業や、市内のほかの主催者事業で参加した人が、滞在中に新しいアイデアを得て、別の目的や手段をつくって戻ってくる。漠然としたアイデアを持って滞在した人が、滞在しているうちに、協力者に出会ったり、手応えを確信して、数年かけてしっかりとしたプロジェクトに展開させ、公演や展覧会などの発表を札幌・北海道で行っている。1990年代から現在までの日本国内のアーティスト・イン・レジデンス（以下、AIR）では、記憶に残る「一期一会」を多く生み出してきていた。さっぽろ天神山アートスタジオは、この点に加え、何度でも利用できる、継続的に地域や人といったリソースに関与することができ、地域に観光とは違う一定数の往来人口を出現させ、このクラスターは、地域活性化の観点で述べら

れる「風の人」の効果を地域にもたらしているのではないだろうか。

同時に、時間をかけた新しい作品やプロジェクトの成立を、AIRとして手助けすることができるようになったことは日本のAIRの中でも特筆すべき実績だと考えている。また、この事実は日本のAIRのこれからの姿を示唆しているような、そんな気もしている。もちろん、AIRとしてアーティストのキャリア形成の中で、有効な場と機会の創出に寄与できたのだな、とこれまではなかなか追跡しきれなかった、アーティストの「AIRのあと」をいっしょに経験することができるのは、AIR運営者として大きな喜びである。

再滞在を予定していた海外拠点のアーティストたちは複数いたが、2020年のパンデミックによって計画変更を余儀なくされている。

(2020年9月 文責：小田井 真美)

継続的に札幌・北海道に関わり続けている2019年度に滞在した札幌圏外・海外アーティスト（例、敬称略A-Z）

浅井 真理子、ポート&小林 耕二郎、菊池 史子、曾我 英子、南 隆雄、松田 朕佳、永岡 大輔、長坂 有希、ニコラ・ブラー、白濱 雅也&白濱 万亀など

*往來の記録はアートとリサーチセンター データベースで見ることができます。 <https://aarc.jp/>



第6回 天神山文化祭2019

開催概要・経緯

天神山文化祭は、まちづくり会「いきいき南平岸」が南平岸駅前通り（白石・藻岩通り）で数年に渡り実施していたアートプレート展の会場としてさっぽろ天神山アートスタジオの使用を提案されたことから始まった。その際に、まちづくり会の既存の活動（散歩会など）やアーティストによるワークショップなどを盛り込むことで、地域連携事業の一環として、またさっぽろ天神山アートスタジオの情報発信の場としてこのお祭りが誕生した。文化祭はさっぽろ天神山アートスタジオを利用する一般利用者や、アーティスト、豊平区などを含む個人・団体が企画・運営を協働で行い、第2回目以降はまちづくり会の年間行事として予算が生まれ、共催

事業として実施することとなった。以降、文化祭を通じて天神山周辺地域の魅力を発見、発信、発展するということが大きな目標となっており、さっぽろ天神山アートスタジオ内だけでなく天神山緑地も活用したイベントを実施している。

第6回目となる今年度は、例年実施してきた秋頃に施設改修工事が予定されており中止も検討されたが、共催のまちづくり会「いきいき南平岸」から「文化祭は（まちづくり会の）年間事業の柱のひとつ、情報発信の場として重要な役割を担う」といった強い要望があり、通常より3ヵ月間前倒ししての実施となった。

開催日時 / 2019年6月29日（土） 11:00～16:00

来館者数 2,259名 / 1日間

（2018年2,201名 / 1日 2017年2,997名 / 2日 2016年3,281名 / 2日 2015年2,646名 / 3日）

企画・運営：一般社団法人 AIS プランニング

共催：まちづくり会「いきいき南平岸」

協力：南平岸まちづくりセンター、豊平区地域振興課、南平岸商店街振興組合

開催プログラム一覧

1. ワークショップ 11:00-12:00,13:00-15:00

- ・リメイクワークショップ 兵頭 ニーナ / ロシア料理店、南平岸
- ・リングアロマキャンドル 佐仲 泰輔 / 澄川
- ・ラジコン体験 逢坂 健一 / 南平岸商店街振興組合副理事長、オーム模型代表取締役、南平岸
- ・いけばな体験 早坂 典子 / はなの會代表、澄川
- ・昔あそび（お手玉・メンコ・けん玉等） 藤原・田中 / いきいき南平岸
- ・魅力発見ほ～！へ～！カルタ体験
- ・天神山 MAP 紹介・配布 山本・高田 / 豊平区地域振興課
- ・読み聞かせ 宮崎 / NPO ココロココの会、南平岸

2. スペイン語&サルサダンス 12:00-12:30

スペイン語講座、サルサダンス体験

シルベストレ・バルガス / 交流スタジオ利用者、白石区

3. スポチャン国際交流大会 12:30-13:00

スポーツチャンバラ体験・トーナメント式交流大会

落合 / NPO 法人北海道スポーツコンシェルジュ、清田区

4. うわさんぼ 2019 14:00-15:00

地元住民による天神山緑地内の歴史・地理・自然の紹介

末廣 仁志 / いきいき南平岸代表、菊池 富也 / 生物環境写真家、澄川

伴野 卓磨 / 道新りんご新聞編集長、南平岸



5. 平岸横断ウルトラクイズ 15:00-15:30

平岸にまつわるクイズ形式の参加型イベント
伴野 卓磨 / 道新りんご新聞編集長、南平岸

6. JAZZ LIVE 15:30-16:00

地元ミュージシャンによる演奏会
瀬戸 奏・徳間 和彦 duo / 南平岸

**7. 松田朕佳展示・ワークショップ** (展示スペース)

滞在アーティスト松田朕佳による展示と参加型ワークショップ
松田 朕佳 / 滞在アーティスト

8. 滞在アーティスト展示 (交流A)

滞在アーティストによる滞在成果発表

亀倉 知恵、佐藤 香、Matteo Biella、Mark Shoffner、Rebecca Herman、Raquel Fontarosa、Michael Litzau、Coyan Rebekah

9. こどもいけ花教室展示 (交流B)

親子いけばな教室受講者(南平岸・澄川地区在住)による生け花作品の展覧会
早坂 典子 / はなの會代表、澄川

10. 市民展示&文化祭参加団体紹介スペース (交流C)

市民による作品展示

中村 省吾(書家/澄川在住)、今野 篤子(絵画/南平岸在住)

参加団体活動紹介

スポーツチャンバラ紹介/NPO 法人北海道スポーツコンシェルジュ

天神山で見られる鳥/菊池 富也、

魅力発見ほ〜!へ〜!カルタ/いきいき南平岸

**11. 地域特産品の紹介**

バラ(久保バラ園)

アップルパイ無料配布(お菓子クラブ Saki)

**12. 南平岸商店街振興組合活動紹介**

南平岸商店街振興組合によるイベント情報&平岸グッズの紹介

コミュニティカフェ「こみか」「こども食堂」「100円商店街」告知、

組合店舗紹介

ゲストハウス OYADO、菓子工房 Deer、

ワールドウィング札幌、オーム模型

**13. のんびり喫茶「天神山」**

地元店舗の協力によりコーヒーとパウンドケーキ、スープを紹介

いきいき南平岸、パティスリー楽

14. アートプレート展(天神山緑地内所設置) 6/29(土)~7/17(水)

近隣小学校児童による作品(アートプレート)の展示

参加小学校/平岸小学校、平岸西小学校、平岸高台小学校、東山小学校

天神山文化祭について

小林 亮太郎（さっぽろ天神山アートスタジオ 地域コーディネーター）

天神山文化祭は地域のまちづくり会「いきいき南平岸」さんから、ある話を耳にした事から始まります。彼らが数年に渡って実施していた「アートプレート展」という近隣小学校の児童の作品を紹介するイベントが、都合によって同じ場所で実施できなくなるので、会場を探しているんだ、と。

天神山アートスタジオが開館して間もない頃、アーティストだけでなく一般の人たちにもどんな施設なのかを知ってもらうことが喫緊の課題でした。そのような経緯もあり、地域交流担当の私（小林）はとにかく地域との接点を作ろうとまちづくりセンターに挨拶に行ったり、町内会の会合にお邪魔させてもらったりと奔走していました。丁度、そんな時だったので、この話はまさに渡りに船だったのです。

事務所でこの話をすると、「展示をするだけではもったいないよね」ということになり、まちづくり会の既存の活動（散歩会、歴史探訪など）やアーティストによるワークショップなどを取り込んだ「天神山文化祭」が生まれたのです。そして2年目以降は、まちづくり会さんの例年行事として予算が組まれることになり、このお祭りを通じて地域の発信をしていこう、天神山の魅力を伝えようという素敵な目標が定まりました。また攻めの姿勢を忘れずに、普段

天神山を利用する一般市民（ピアノを弾きに来ている人、交流スタジオでダンスの練習をやっている人、犬の散歩でやってきて知り合った人とか）や、たまたまその時滞在していたアーティスト、豊平区の地域振興課の人たち、南平岸商店街振興組合の人たちなど日常の中で出会った人たちを、どんどん巻き込んでいきました。

そして、第6回にもなると企画側の常連さんも増えてきて、各自が「今年はこれをやろうと思う」「こんなことできる？」と積極的に意見が出るようになってきました。このお祭りがみんなの発表・表現の場として機能するようになったのです。私は公共の場とは、他人に気を配りながらも、ちゃんと自分のやりたいことをやってみる/やっていたい場だと思っているので、この文化祭はその理想の公共の在り方を具現化したものだと思っています。

また余談ですが、今年度の文化祭反省会の場で、「そもそも文化とは何かを見直す時が来た！」という声があがったそうです。当初、私の事を「アートさん」と呼んでいた70代〜80代の方々が中心となるまちづくり会のメンバーからです。これは偉大な進歩だと思います。





さっぽろ天神山アートスタジオ地域連携・国際交流事業 札幌市内の子どもを対象にしたアーティスト・ワークショップ 「バイバイバイのバ」

企画詳細

<開催日時> 2019年12月7日(土)、8日(日) 両日とも13:00-17:00

<開催場所> さっぽろ天神山アートスタジオ

<実施内容>

各地で活躍するアーティストの関川航平さんを講師にお迎えして、みなさんと一緒に「バイバイ」することについて考えるワークショップ。

関川さんは、「みること」「きくこと」「はなすこと」「かくこと」に注目して特別な技術をもっている現代美術のアーティストである。

このワークショップでは、関川さんが参加するみなさんを励ましなが、参加するひとりひとりが、自分のなかにある感覚や、感情に目を向けるような時間を過ごし、参加者がちょっとり切なく、優しい気持ちになれる。そんなワークショップになることを目指す。

参加費用：無料

参加対象：小学5年生 - 中学3年生

参加者：19名



<講師 / アーティスト>

関川 航平 (せきがわ こうへい)

1990年生まれ。パフォーマンスやインスタレーション、展覧会企画などさまざまな手法で意味の伝達について考察する。主なグループ展に2019年「二つの部屋、三つのケース」(京都芸術センター、京都)「VOCA展2019」(上野の森美術館、東京)、2018年「トラベラー:まだ見ぬ地を踏むために」(国立国際美術館、大阪)、主な企画に2019年「5月」(以外スタジオ、とそれ以外)、2018年「漂泊する私性 漂泊する詩性」(横浜市民ギャラリー、神奈川)など。



たとえば学校からの帰りに友達と別れる時「バイバイ！」とか「じゃあね」とか言ったりしてるんじゃないかと思えます。もしかしたら「またね」とか「また明日」とか言うかもしれません。友達とはまた明日には学校で会えるでしょう。

しかし、別れてからの帰り道にはさっきまでいた友達は目の前にいません。さっきまで会っていたのに。これは何なんでしょう。顔や、もしかしたら声も思い出すことができます。ただ、今日の前にはいません、これは何なんでしょう、「覚えている」ということなのでしょう。

今、あなたはこの文章を読んでいる今ですが、一番はじめの「たとえば学校からの帰りに～」の部分を読んでい

る時からは少し時間がたちました。はじめの方に書いてあったことを思い出すことはきっとできるでしょう。ただ、今読んでいるのは「この文章で、目の前にはさっきの文章はありません。もちろん、さっきの文章を読み返せばまったく同じ文章を読むことができます。けれど、最初に読んでいた時間には戻ることができません。これは何なんでしょう。

友達にお別れを言ったように、自分のまわりを過ぎ去っていく色々なことに「バイバイ」してみましょう。「バイバイ」している間にもどンドン通り過ぎていってるね。(関川航平)

<活動スケジュール>

参加者：両日とも 13:00 集合、17:00 解散

スタッフ：両日

10:00 スタッフ集合

10:00～11:00 会場準備

11:00～12:00 講師及びスタッフ打ち合わせ

12:00～12:30 講師及びスタッフ昼食

12:30～13:00 受付

13:00～17:00 ワークショップ実施（オリエンテーリング含む）

17:00～18:00 参加者解散／会場撤収

“出会えない” 私たち —— バイバイ、バイバイバイバイのバ

山田 大揮（さっぽろ天神山アートスタジオ コーディネーター、アーティスト）

「バイバイ」というのは、何らかが出会っていることが前提にある。私たちが「バイバイ」するとき、そもそも出会うことができているのだろうか。それとも…。

2018年と2019年、講師としてアーティストの関川航平さんを招き、小・中学生向けのワークショップを開催した。2018年は「すぐよくみる」、2019年は「バイバイバイバイのバ」と題し、それぞれ「よくみる」と「バイバイ」を扱ったワークショップだったが、ここではその両方に関わることとして、「出会う」をキーワードに振り返りたい。

どちらのワークショップも、「関川さんによるレクチャーの後に、参加者全員で実践してみる」というユニットが連続する形の構成となっている。

例えば、「すぐよくみる」では「私たちは名前のあるものしか名前を呼べないが、名前を呼びづらいもの（物と物の間に偶然できた隙間など）もある」という話の後、「名前を呼べるもの・呼べないもの」を見つけてみるといったように。「バイバイバイバイのバ」では「私たちは見たものを全ては覚えていない」という話の後、家から会場まで来た道を思い出して、それを書いて（描いて）みるといったように。こうして、参加者は関川さんの思考と実践に巻き込まれながら、最終的な結論の出ないうちに、ワークショップが終了となる。

参加者と保護者が事前に期待した内容とは、少し離れた内容のワークショップだったのではないかと思う⁽¹⁾。もはや参加する前から想定したものと出会えていない。

関川さんは、作品を通した意味の伝達について考察するアーティストであり、作品形式はパフォーマンスやインスタレーションなど、小・中学校ではあまり出会うことのない現代美術の文脈で活動を行なっている。関川さんとの出会いは、参加者にどのような影響を与えたのか。

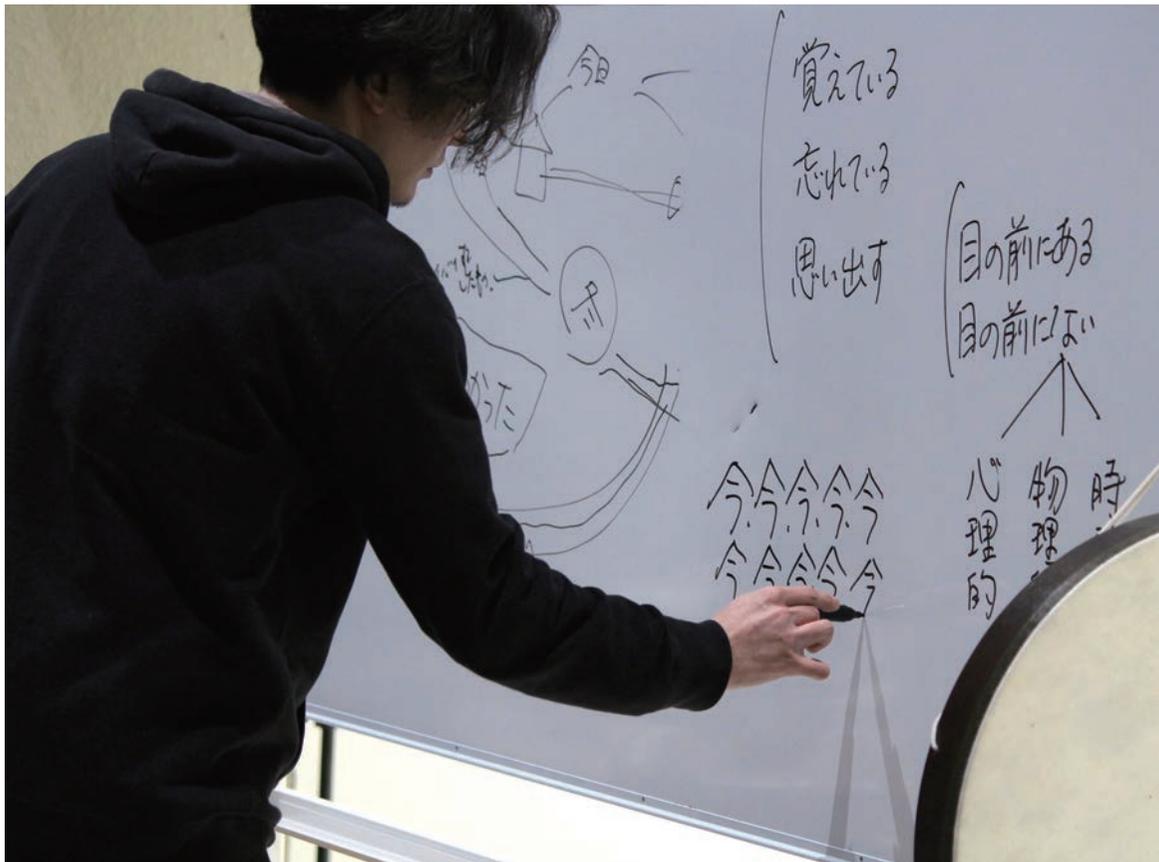
参加者アンケートでは「わからない…」という声もあったのだが、その「わからなさ」を維持することが重要だということが、レクチャーのなかでも伝えられた。「わからない」を抱えて帰り、いつの日か「わかった」とき、改めて「出会い直す」ことができる。そのとき、初めて「バイバイ」なのである。

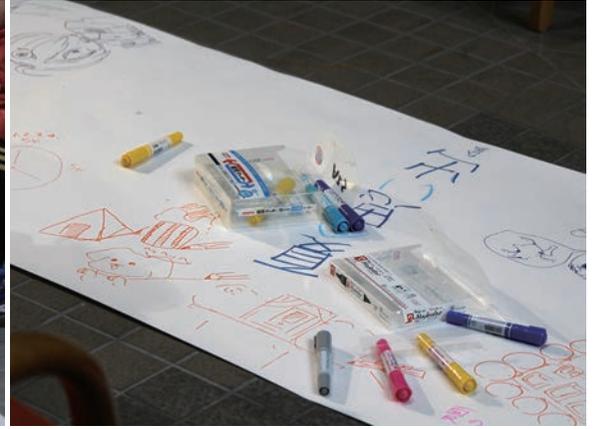
参加者である子どもたちは、20年も経てば今の私や関川さんの年齢を超えてしまう。その時、関川さんとの出会いが良い方向に作用していることを期待したい。

しかし、ここで子どもたちから受け取ったアンケートを見返してみると、「みんなとやった卓球が楽しかった」とか、「いっぱい喋ることができて嬉しかった」といった感想がたくさんあって⁽²⁾、企画者の意図と参加者が出会わないことも、また一つの面白さなのだと思います。

(1) 一部の保護者からは「描く」「造る」といった内容を想像していたという声や、「もっと”アート”と触れて欲しかった」といった声もあったが、ほとんどの参加者はそれぞれ楽しんで色々感じることができていたようで、それを受けた保護者からも良かったという感想が多かった。

(2) あくまでもこういった感想は全体の3~4割ほどであって、ワークショップの内容に踏み込んだ感想も多く、「物事の見方が変わった」という参加者も数名おり、そういった方は物事に対して「出会い直す」ことができたのだといえる。





UCCN アーティスト・イン・レジデンス・プログラム 2019-2020

札幌市はユネスコ創造都市ネットワーク (UCCN) の取り組みの一環として、札幌市が加盟するメディアアーツ都市とアーティストの往来を通じてその交流を活性化させるため、札幌市のアーティスト・イン・レジデンス拠点であるさっぽろ天神山アートスタジオにおいて、2018年度よりアーティスト・イン・レジデンス事業（以下、AIR）を開始しました。

2018年度は、リンツ/オーストリア、トロント/カナダからそれぞれ1名/組のゆかりあるアーティストを、今年度2019年度は、同じく14都市の候補者の中から、ラテンアメリカのグアダハラハラ/メキシコのホルヘ・ラミレスを選出し、60日間のAIR事業に招聘しました。

ホルヘ・ラミレスは、このAIR事業のチャンスを活用し、モジホコリ粘菌の知的能力の研究で国際的に評価されている北海道大学 中垣俊之教授と研究室の全面的な協力を受け、テクノロジーとバイオロジーのコラボレーションプロジェクトの展開を可能にしました。さらに、札幌市内でガラス工芸に取り組み作家 上杉高雅氏（ガラス工房 Studio π）から技術的に多大な協力を得て制作を実現させることができました。

創造都市さっぽろ
<http://www.city.sapporo.jp/kikaku/creativecity/creativecity/index.html>
 協力：北海道大学 物理エソロジー研究室、
 ガラス工房 Studio π（ガラス作家：上杉高雅）
 後援：メキシコ大使館



<招聘アーティスト>

ホルヘ・ラミレス / Jorge Ramirez

建築家、メディアアーティスト、サウンドアーティスト、キュレーター

ホルヘ・ラミレスは、プロセス思考の作品群、サウンド、彫刻、アクション、キュラトリアルプロジェクトなどを通して、不可思議さへの窓口として、「創発現象」を探求しています。彼の仕事は、知覚力、オーグメンテーション、ヒューマン・エクスペリエンス、思考力、マテリアリティなどを調査して得られた、計算ロジックに基づいて進められます。ゲストアーティスト・講師として、モスクワのポリテック科学博物館、オーストラリアの王立研究所 (RiAus)、北京の清華大学、ケルンの音楽とメディア研究所 (IMM)、ベルリン芸術大学 (UDK)、チューリッヒ芸術大学 (ZHDK) のインタラクション・デザイン科、そしてメキシコの国立芸術センター (CENART) などでの仕事があげられます。

彼の作品は、メキシコ、中国、日本、オーストラリア、ロシアに限らず、ヨーロッパ中で、展示されています。また、ホルヘの作品は、Wired, Archdaily, Vice, Global Times (スイス)、Resident Advisor (日本)、Afisha (ロシア)、Código DF, Expansión, La Jornada, Milenio などの国際的なメディアに取り上げられています。

Jorge Ramirez, through process-oriented artworks, sound, sculpture, actions and curatorial projects, explores emergent phenomena as a window to the uncanny. His work relies on computational logic to investigate perception, augmentation, human experience, consciousness and materiality.

He has been guest artist and lecturer at Polytech Science Museum in Moscow; Royal Institution of Australia; Tsinghua University in Beijing; Institute fuer Musik und Medien, Koln; Universtitat der Kunste, Berlin; ZHDK Interaction Design department, Zurich; and CENART, México. His work has been exhibited in México, China, Japan, Australia, Russia and throughout Europe. Jorge's work has been featured in national and international media outlets such as Wired, Archdaily, Vice, Global Times (CH), Resident Advisor (JP), Afisha (RUS), Código DF, Expansión, La Jornada, Milenio, among others.

プログラム期間 2019年11月19日(火)～2020年1月23日(木)

滞在制作成果発表 2020年1月18日(土)～22日(水)

オープニング・イベント ゲスト：三原 聡一郎（アーティスト、2019年度公募選考委員）

パフォーマンス・イベント 2020年1月22日(水)

Pulse: Live coding & algorithmic music - コンピューターを使ったサウンド・パフォーマンス

出演：ポーリング・スリーサムス（ホルヘ・ラミレス）、ゲスト：レニック・ベル

会場・共催 札幌文化芸術交流センター SCARTS

プロジェクト概要

スペース・マターズ（宇宙の事柄）

スペース・マターズ（宇宙の事柄）/Space Matters

スペース・マターズは、生物学的コンピューターとして機能する、彫刻的なインスタレーション作品です。無重力状態での「創発現象」である物質結晶化のプロセスの中に秩序があるかどうかを調べるため、科学的データと自由なコンピューティングを展開し、生命、知性、意識というものの認識に対しての斬新な洞察を見せてくれます。

スペース・マターズは、物質が凝固する時点で形になるマイクロ構造を観察するための、透明な合金を使った一連の実験を、資料として使用しています。その実験は、2009年に着手され、複数が利用できる施設として国際宇宙ステーション（ISS）に搭載された DECLIC (Device for the study of Critical Liquids and Crystallization) の中にある機関、DSI (Directional Solidification Insert) にて行われました。使用されたこれらの合金は、金属と同じように凝固し、その過程で同様にマイクロ構造を形成します。金属は不透明であるため、研究者は事後に凝固プロセスを分析する必要がありますが、透明な合金を使用した場合のみ、実時間で凝固が観察できるのです。また、無重力状態では、地球上では達成不可能な物質の状態を観察することができます。

凝固中に形成される透明な合金の細胞と樹状突起は、驚くべき挙動をとることがあります。例えば、ある成長パラメータでは、3次元の細胞構造が成長するにつれて移動または振動し、形成される基本パターンに沿って、呼吸中の肺のようにリズムカルに膨張および収縮します。呼吸のようなこれらの振動は、細胞が膨張しすぎるとその細胞を分裂させ、収縮しすぎるとその細胞を消滅させます。適応できる性質を持った「創発現象」のシステムを見せてくれます。

物質科学者は、「創発現象」の中に組織構成を探するため、そして細胞同士の相互作用を理解するため、細胞間の最短経路を算出しようとします。そしてそれが非常に複雑である場合、細胞内の構造は、生命というものを定義する範囲を曖昧にしかねません。目に見える世界を構成している物質の間にある組織構成は、根本的な物質構成がどうであるにかかわらず、生命への接点なのです。

ホルヘ・ラミレスは、無重力状態で透明な合金を使った実験で得られた、DECLICからのオリジナル画像を使用して、全く新しい視覚化の方法を発展させました。フランスの大学内にある、ナノサイエンス・マイクロエレクトロニクス物質研究所

(Institut Matériaux Microélectronique Nanosciences de Provence) の物質科学者および、日本の北海道大学で「這行運動のバイオメカニクスと進化」の研究を行う専門家からの協力が、大きな助けになりました。

ラミレスは、まず始めにコンピュータービジョンを使用して、物質細胞の形態学的分類を見極めるため、国際宇宙ステーションの DECLIC から取得した画像を分析しました。その後、画像は3Dモデルに変換され、格子構造をトポロジーとして表すために、3Dプリントされ、ガラスにも鋳造されました。最後に、細胞の組織構造を計算するために、粘菌またはモジホコリ、生きている生物などを使うことによって、細胞間の最短経路を算出しました。

粘菌は、生存するためのテクニック——数百万年にわたる進化によって発展した天然のアルゴリズム——を行使し、食べ物を見つけるため最短経路に沿って成長します。そして、人工知能の研究で使用されるディープニューラルネットワークのように、粘菌は正しい答えを導きますが、度々、人間とは異なる方法で問題を解決するのです。

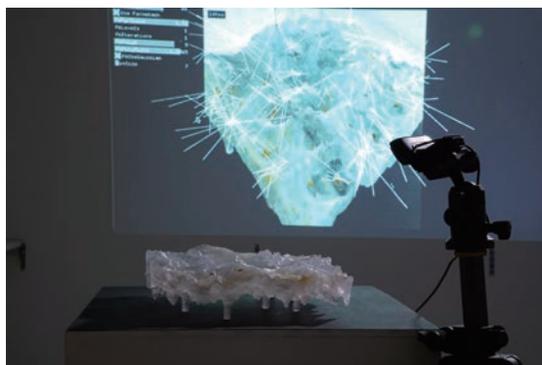
粘菌には、脳も神経細胞もありません。その原始的知性は、この秩序を見つける能力によってのみ特徴づけられています。

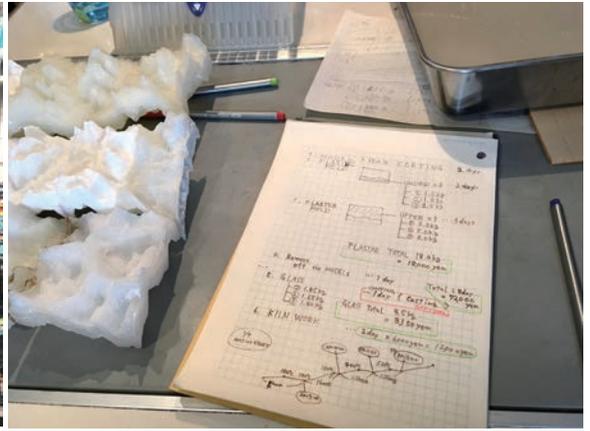
これらの秩序を探求する行動を通じて、スペース・マターズは2つの疑問を投げかけます。

生命とは何か？

知性とは一体何なのだろうか？

創発現象：単純なものから複雑なものが生まれる仕組みを明らかにする複雑系科学。多くの要素が集まって相互作用したときに全体として新たな特徴が生まれること、また時間の経過とともに新たな特徴や構造が出現したりすること。





©Jorge Ramirez "space matters" 2020, Photo: Yoshisato Komaki

Bio computer the slim mold crawls on the topography that captured in the zero gravity

無重力状態で捉えた地表面を粘菌に這行させるバイオ・コンピューター

Chika Matsuda, Program Coordinator, Artist /

松田 朕佳 (プログラム・コーディネーター、アーティスト)

メキシコ・グアダハラハラからやってきたアーティスト、ホルヘ・ラミレス。「生命の起源は、無機物の粒子の衝突によって発生したという説があるんだ。」ノートパソコンを開き、国際宇宙ステーションでの実験画像（無重力状態で合金の温度変化による粒子の動きを捉えたもの）を見せてくれた。グレートーンの画像には水銀のように丸く均一に整った粒が並んでいる。これらの粒子が“まるで細胞のように”動き、その摩擦や衝突で別の物質が生み出されることがあるそうだ。そんな風にして長い時間—天文学的な時間の中で、無機物同士の衝突から偶然に有機物が生み出される可能性があり、それが生命体の起源だという説。この仮説がホルヘへの制作の支軸となっており、様々な形で行われる仮説樹立の試みが彼の継続的なシリーズ作品「スペース・マターズ」である。

UCCN で来札の機会を得たホルヘは北海道大学の中垣俊之教授による粘菌が迷路を解く研究に着目。研究室を訪れた。粘菌が意思を持っているかのように餌までの最短距離をとり、さらに学習するという。この単細胞生物の行動に“知性”を見出す中垣教授の研究は、ホルヘの支持する「生命は（神の創造物ではなく）偶然に発生した」という仮説を励ますものだったに違いない。教授や研究室の院生である越後谷駿さんから粘菌の生態や培養について教えを受け、スタジオのキッチンで寒天を煮て培地を作った。白濁した半透明の培地を蛍光に近い黄色の粘菌が餌であるオートミールへと血管のような触手を伸ばし成長する。

ホルヘの仮説を支える大本であり、象徴的なイメージとして扱っている国際宇宙ステーションでの実験画像—この、沸いている水面のように高低差ができる瞬間の画像に、ホルヘは地形を見る。地元のガラス作家である上杉高雅さんの協力を得てホルヘの画像データから鑄造ガラスを制作してもらい、それを粘菌の培地を置く支持体とした。ホルヘ曰くこの作品は「人間の干渉を離れ（入力なしで）“勝手に”計算をしているバイオ・コンピューター」とのこと。生命維持の為の効率を算出している粘菌の這行運動×無重力状態で観測された合金の粒子の地表。この掛け合わせが導き出す答えとは一体なんなのだろう。その答えもまた、人間の干渉の及ばぬものということか。波状の地表面を、極遅のスピードで粘菌が這行し、黄色で隈取っている。鑑賞者にとっては、ただそれだけのことである。

Artist, Jorge Ramirez from Guadalajara, Mexico says “there is a hypothesis that biological life jumped out of a collision between particles of inorganic matters.”

He showed me an image on his laptop. The image was captured in the International Space Station, during an experiment of alloy in zero gravity. A gray scale image of mercury-like spherical forms. Cell-like behavior of these particles are observed, and collision and friction of the particles can cause outbreak of another matters. In such a long time -as the astronomical time, organic matter can be accidentally produced from the collision of inorganic matters, and this organic matter could be the origin of biological life. This hypothesis is what Jorge’s research is based upon and he has been developing series of works “Space Matters” around this idea.

UCCN program brought Jorge to Sapporo, and to visit his longed Professor Toshiyuki Nakagaki at Hokkaido University whose research demonstrated that slime mold finds the shortest path to the food in the maze. Prof. Nakagaki sees “intelligence” in the behaviors of single-celled organisms, which probably encouraged Jorge’s hypothesis that biological life occurred by chance rather than God’s creation. Prof. Nakagaki and his graduate student, Shun Echigoya taught Jorge about ecology of slime mold and how to cultivate them. Then he cooked agar and made a medium in the studio kitchen. The fluorescence yellow slime mold extending the tentacles like blood vessels toward oatmeal on the translucent agar medium.

The image that Jorge sees a topography in, was taken in the International Space Station, is the important supporting material of his hypothesis and as well he treats it as a symbolic image in his work. Thanks to the support of the local glass artist, Takamasa Uesugi, Jorge’s image data was replaced to cast glass pieces, which then became the base for the agar mediums. Jorge describes this work as “Bio computer that calculates “arbitrarily” without human interference (without input)”.

It seems like a multiplication of a crawling of slime mold calculating the efficiency for life, and the topography of alloy particles observed in zero gravity. Then what is the answer derived from this multiplication? The answer is also beyond human interference. For the viewer, all one sees is that the slime mold crawls at a very slow speed shading the wavy topography yellow.

Exchange Program 交換プログラム

国内外のアーティスト・イン・レジデンス拠点、アートセンターなどと将来的かつ継続的なプログラム連携を目的にした交流を行っています。交流・交換プログラムのパートナーは、札幌・北海道の都市構造、地域の歴史や特性において共同するプロジェクトの文脈が見出せること、お互いのアーティストにとって有意義な滞在制作体験となる組織やチームの方向性、人柄、スキルなどを考慮して決めています。お互いの相性、なんらかのご縁をきっかけに、これまでも深圳（中国）（2015-2016）、台北&台南（台湾）（2014-2016）と今年度も継続している2拠点と新たに1拠点と、前向きな関係を構築しています。

2015年より Asialink（メルボルン／オーストラリア）から派遣されるアーティストの受け入れを1名／年に継続して行い、2019年度には、さっぽろ天神山アートスタジオから1名のアーティストを派遣することになりました。Dawn Artists Village/ TEC LANDARTS FESTIVAL（台東／台湾）とは、昨年度からお互いのアーティストを派遣しあう交換プログラムを開始し、今年度は台湾アーティストを札幌に招聘し、来年度に日本アーティストを台東に派遣する計画です。数年前から交換プログラムの実現を願っていた韓国とは、来年度の共同プロジェクト実現を目的に、今年度はリサーチを実施するため Barim（光州／韓国）から招聘しました。

[2019年度交換プログラム実績]

Asialink（メルボルン／オーストラリア）

Stephanie Bishop/ ステファニー・ビショップ

2019年11月1日（金）～12月28日（土）

Dawn Artists Village/ TEC LANDARTS FESTIVAL（台東／台湾）

Yu Hsin Wang/ ユーシン・ワン / 王昱心 (Tanivu Tapari)

2020年1月20日（月）～2月27日（木）

Barim（光州、韓国）

Min-hyung Kang/ ミンヒョン・カン、Sooeun Lee / スウォン・リー

2020年1月31日（金）～2月29日（土）

[派遣プログラム]

Asialinkを受入先として、メルボルン大学が運営する The Norma Reddpath Studio へ国内アーティストを公募により募集し、1名のアーティストを派遣しました。

Yo Yasuda/ 安田葉

2019年10月31日（木）～12月14日（土）



Open-call Program 国際公募 AIRプログラム

アーティスト・イン・レジデンス拠点として活動を開始した2014年度から、札幌・北海道の風土であり独特の地域文化を育む冬季に焦点を当て、特に積雪量が多く気温の低い厳寒期をプログラム時期に定め、サイトスペシフィックな活動を期待して広く公募型の招聘プログラムを実施しています。2017年度夏には、札幌国際芸術祭が開催されたこともあり、招聘アーティストには作品展示として質の高い内容のアウトプットをプログラム最後に設ける「エキシビション・プログラム」と、一般社団法人 AIS プランニングが培ってきた地域ネットワークとコーディネートスキルを活用して、招聘アー

ティストが札幌市内の小学校に一定期間通いながら小学校を一時的なスタジオに見立ててプロジェクトを行う「アーティスト・イン・スクール・プログラム」を開始しました。また、さっぽろ天神山アートスタジオの事業設計段階で、国内のアーティストが日本国内でのアーティスト・イン・レジデンスにもっと参加できるようにと考えていたため、応募要項では国籍を不問としました。2018年度からは文化庁の支援条件で公募は国外アーティストに限定されましたが、文化庁支援枠を活用した同時期の国内アーティスト招聘を継続して行っています。



[2019-2020 s(k)now 『雪・冬・北方圏』]

エキジビション

Undine Sommer / ウンディネ・ゾマー (ドイツ)

アーティスト・イン・スクール

ADRUNNOGNT (Nguyen Ngoc Tu Dung (VN) and Arnont Nongyao (TH)) / アドルウント (グエン・ゴック・トゥ・ユン (ベトナム)、アーノン・ノンヤオ (タイ))

選考委員

島袋 道浩 (アーティスト) / 三原 聡一郎 (アーティスト) / 山本 高之 (アーティスト) / 小田井 真美 (さっぽろ天神山アートスタジオ AIR ディレクター)

主催: 札幌市、さっぽろ天神山アートスタジオ コーディネート: 一般社団法人 AIS プランニング

支援: 文化庁 / 令和元 (平成 31) 年度 「アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業」

協力: 札幌市立本町小学校

後援: 駐札幌大韓民国総領事館、在東京タイ大使館



イベント

2020年2月21日 (金)

トークとワークショップ

会場: 札幌市民交流プラザ 1階 SCARTS コート (中央区北1条西1丁目)

主催: 札幌市、さっぽろ天神山アートスタジオ、札幌文化芸術センター SCARTS (札幌市芸術文化財団)

- ・ワークショップ: 「冷蔵庫の中で動き回って音を見る」 アドルウント
- ・レクチャー: 「さっぽろ天神山アートスタジオでのアーティスト・イン・レジデンスについて」 小田井 真美
- ・アーティストトーク: ユーシン・ワン (台湾)、樺山 智子 (日本)、ゲスト: マユンキキ (マレウレウ)、聞き手: 小田井 真美

2020年2月28日 (金) ~ 3月1日 (日)

「2019-2020 s(k)now 雪・冬・北方圏 滞在成果発表」

会場: さっぽろ天神山アートスタジオ

展覧会: ウンディネ・ゾマー (ドイツ)

オープンスタジオ: アドルウント (タイ/ベトナム)

2月28日

- ・スウォン・リー (シアターディレクター、韓国/ベルリン) アーティストトーク
- ・アドルウント (タイ/ベトナム) パフォーマンス

3月1日

- ・メルボルン (オーストラリア) 派遣プログラム報告会 アーティスト: 安田 葉 (日本)
- ・ウンディネ・ゾマー (ドイツ) アーティストトーク

3月4日

コロナ・フィルム・フェスティバル (アーティストによる自主上映会)



謝辞 (敬称略)

s(k)now アーティスト・イン・スクール・プログラム | アドルウント

風間 天心、中宮 典子、長谷川 眞理、永田 壘、札幌市立本町小学校、在東京タイ大使館

s(k)now エキシビション・プログラム | ウンディネ・ゾマー

磯崎 道佳、風間 天心、上川町郷土資料館ふる里たいせつ館、北茨城市歴史民俗資料館・野口雨情記念館、菊池 史子、佐藤 謙、北海道自然保護協会、層雲峡ビジターセンター、東川寺、西松 秀祐

s(k)now 日本アーティスト・プログラム | 樺山 智子

萱野 志朗、平取町二風谷アイヌ語教室、氏原 英和 (R[アール]), 山下 俊介 (北海道大学総合博物館)、北海道大学アイヌ・先住民研究センター、長田 佳宏 (平取町立二風谷アイヌ文化博物館)、広岡 絵美 (平取町立二風谷アイヌ文化博物館)、マユンキキ

The Night of the Corona Film Festival

Chiaki Sakaguchi (Program Coordinator, Art writer)

Due to the prevention of the spread of the novel coronavirus, the suspension of all events sponsored by City of Sapporo was announced on February 22. And following the declaration of the state of emergency by the governor of Hokkaido on February 28, *TENJINYAMA ART STUDIO* closed its doors and three days of final presentation of a 60-days winter residency program *S(k)now* ended up being so quiet with almost non-visitors. A few days before leaving the eerily quiet building, Dung wanted to mark the conclusion by doing something together and came up with an idea to organize a film festival that took place on March 4. *Dung* and *Arnont* of *Adrunnongt* asked people to bring video works and homemade dishes and it became a potluck screening. The screening started with *AIS Planning's* heartwarming video album for the graduating students from an elementary school, which they couldn't make public due to the cancellation of the graduation ceremony. And the total of nine video works from four resident artists and two staff were screened. As the film festival doubled up as a farewell party, various dishes were arranged on the table, such as butter chicken, seafood spaghetti, paella, potato gratin and falafel. (And we all regretted that we forgot to buy Corona beers.)

During the screening program, we made discoveries about each other and we should have organized something like this sooner. Among all, *Dung's* first-ever shown film *When the Moon Whispers to Mosquitos* struck me a lot. It was an enigmatic or prophetic Asian horror movie of ruins, forests and a high school girl. I saw her traits as an individual artist for the first time, because she was shy and always tried to hide behind *Arnonto*. So it was a nice discovery of her fresh perspective.

At the end of the program, *Chika* and *Yuko* slowly began to walk around the table while singing, and everyone started chiming in with their chopsticks and plates as if it had been rehearsed. This improvised ensemble with rat-tat and clink-clank continued until the final refrain of the song. We were a 60-day pseudo family that would soon be scattered. Everyone calmly accepted this emergency, but at the same time, we were slightly nervous and shared our wounded feelings. The festival turned out to be a party where we were consoled each other, accepting being defeated by the coronavirus crisis. One might have the idea that "You lost the opportunity of the final presentation, so why don't you move to an online platform and show it to as many people as possible?" But at that time, artists lived in Tenjinyama most needed this festival just for themselves. I truly felt that it was a night of cultural resistance against the pandemic to assure their creative powers for foreseeing an invisible future.

"The Corona Film Festival is the memories of me and *Dung* ever, maybe this will be the start of some energy inside of participators (that we are already got it) to continue in the world crisis of the Corona period." -*Arnont*-

コロナフィルムフェスティバルの夜

坂口 千秋 (プログラム・コーディネーター、アートライター)

60日間にわたる冬の招聘プログラム *s(k)now*。その滞在制作のハイライトともいべき2月28日から3月1日までの成果発表とクロージング(交流会)は、新型コロナウィルス感染拡大防止対策として出された2月22日の札幌市主催事業の自粛宣言、ついで28日の北海道緊急事態宣言に準ずるスタジオの閉館によって、誰も来ない静かな3日間が終わった。異様にひっそりした館内で滞りも残すところあと数日という3月4日、「最後にみんなで何かやろう」というユンの発案で、コロナフィルムフェスティバルが開催された。ユンとアーノンが呼びかけ、各々が映像作品と手料理を持ち寄ったポットラック上映会。小学校の卒業式が中止となりお披露目が叶わなかったというAISブランニング制作の卒業生思い出ビデオから始まり、滞在アーティスト4人とスタッフ2人の映像作品計9本が上映された。テーブルにはバターチキン、シーフードスパゲッティ、パエリア、ポテトグラタン、ファラフェルなどの料理が並び、送別会も兼ねていた。(コロナビールを買い忘れたことを一同悔やむ)

プログラムは、どうして今日まで見なかったのかが悔やまれるほど、それぞれの作家に発見があった。中でもこれがプレミア上映というユンの《When the Moon Whispers to Mosquitos》は新鮮だった。森と廃墟と女子高生の不穏で予言的なアジアホラー。普段アーノンの後ろに隠れて彼女の作家性まで知るに至らなかったが、こんな眼差しを持っていたとは。そしてプログラムの終わりに、チカとユウコが歌いながらゆっくりテーブルの周りを歩きはじめると、お約束のようにみんな箸やお皿を叩き出し、歌のリフレインが止むまでチンチン、ドンドンとゆるい合奏が続いた。もうすぐ散り散りになる60日間の疑似家族。みんな冷静にこの緊急事態を受け止めていたけれど、やっぱり誰もがうすうす傷ついていた。コロナに負けたやるせなさど諦めと、いたわりのホームパーティ。「成果発表の機会が失われたのだし、ネット配信して多くの人に見てもらえば？」というアイデアもあったかもしれない。けれどもこのフェスは、天神山に暮らすアーティストたちが、まず自分たちに必要としたものだった。そして最終的には、互いのクリエイティブな力を確かめ、支え合いながら見えない未来に立ち向かう、創造的レジスタンスの夜となったのだ。

「コロナフィルムフェスティバルは、僕とユンにとって忘れられないイベントだ。それぞれのコロナ禍を生きていく一歩を、この日に踏み出せたように感じる。だから今はとても元気です。(アーノン)」

Tenjin yama World Recipes



MY GRANDMA'S POTATO SALAD UNDINE SOMMER



Germany / ドイツ



When I was little, we lived near Berlin and my grandparents lived near Frankfurt. It was a six-hour car ride if it went smoothly, but longer if there were traffic jams. Because it was difficult to know the time of arrival, my grandmother always prepared a potato salad. A potato salad sits patiently on the table and gets even better with time. For me, it will forever taste like arriving at my grandparents' home after a long ride. I hope this recipe will give you, too, a feeling of falling into someone's arms who has been waiting for you.

2020年の真冬に、天神山アートスタジオのみなんでご馳走になったウンディネ・ゾマー（ドイツ）の「おばあちゃんのポテトサラダ」がとても美味しくて忘れられません。今回レシピを作るにあたって、ウンディネはお姉さんといっしょにあらためて「おばあちゃんのポテトサラダ」の試作してくれたようです。「私が小さい頃、私たちはベルリンの近くに住んでいて、祖父母はフランクフルトの近くに住んでいました。スムーズに行けば6時間の車でしたが、渋滞があればもっと長くなりました。到着時刻がわかりづらかったので、祖母はいつもポテトサラダを用意していました。ポテトサラダは辛抱強くテーブルの上に置かれ、時間とともにさらにおいしくなります。おばあちゃんのポテトサラダは、私にとっては、長い道りを経て祖父母の家に到着したような気分させてくれます。このレシピで、あなたを待っていた誰かの腕に抱かれるような気分になることを願っています。」とウンディネからの言付けです。

◆ INGREDIENTS

2 Servings

For Potatoes

500g potatoes (a firm cooking kind will be best)
Salt

For Broth

125 ml of water
1 teaspoon instant vegetable broth
½ medium-sized white onion
½ red bell pepper

For Vinaigrette

2 tablespoons sunflower oil (or any neutral oil)
2 tablespoons white wine vinegar
2 teaspoons smooth mustard
½ teaspoon sugar

Marriage

3-4 small gherkins (German pickled cucumbers,
I found them in big supermarkets in Japan)
Salt for taste
Black pepper for taste
A pinch of nutmeg
A few twigs of parsley, chopped very finely

Serve with

Boiled Eggs or boiled sausages
Mustard

◆ RECIPE

For Potatoes

Put the potatoes unpeeled and uncut in a pot with cold water and a generous amount of salt and bring to a boil. Boil for maybe 20 minutes. Stick a knife into a potato to check. If it slides in easily, they are done. They should not be too soft, or otherwise, they will fall apart in the salad. Toss the water.

Let the potatoes cool, so that they are warm, not hot. Peel them and cut them into 4 mm thick slices. You want the potatoes to be still warm when you mix them with the broth and vinaigrette. That way it will be a successful marriage.

For Broth

In a small pot bring the water to a boil. Mix in the instant broth and importantly: remove from the heat. Add the onions and bell pepper and let them get soft in the remaining heat of the water.

For Vinaigrette

In a small bowl mix the oil, vinegar, mustard, and sugar.

Marriage

In a large bowl, combine potatoes and the vinaigrette. Pour some of the broth over the potatoes and mix carefully. Check if you need more broth. The salad shouldn't be too wet. You know it's good when it makes a smacking sound.

Mix in gherkins and add salt, pepper, and nutmeg. Sprinkle with parsley. Serve warm or cold —depends when the person you are waiting for will arrive—with eggs or sausage and a dollop of mustard on the side. And of course, two cold beers!

過去に滞在したアーティストからレシピを紹介してもらう TenjinYama World Recipes というブログも大好評です。

ほかのアーティストのレシピもぜひ挑戦してみてくださいね。
「おばあちゃんのポテトサラダ」の日本語レシピもこちらから。

https://ais-p.jp/category/tenjin_blog/

謝辞(敬称略)

さっぽろ天神山アートスタジオに滞在したすべてのアーティスト、関係者のみなさん、様々な場面で運営へのご協力、企画・事業への参加をしてくださったみなさま

中村省五(省山峯)、今野篤子、山口一樹(写真家、キュレーター)加藤康子(北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院)、株式会社 溝口石材工業、岩見沢市美流渡地区のみなさん、ジン鍋アートミュージアム、おもちゃと人形のはた、岩見沢放声協会(IHK)、岩見沢市、まちづくり会「いきいき南平岸」、南平岸まちづくりセンター、豊平区地域振興課、南平岸商店街振興組合、兵頭ニーナ(ロシア料理店)、佐仲泰輔、逢坂健一(南平岸商店街振興組合副理事長、オーム模型代表取締役)、早坂典子(はなの会代表)、NPOココロココの会、シルベストレ・バルガス、NPO法人北海道スポーツコンシェルジュ、菊池富也(生物環境写真家)、伴野卓磨(道新りんご新聞編集長)、瀬戸奏・徳間和彦 duo、亀倉知恵、佐藤香、Biella Matteo、Herman Rebecca、Fontarosa Raquel、Litzau Michael、Rebekah Coyan、コミュニティカフェ「ComiCa」、ゲストハウス OYADO、菓子工房 Deer、ワールドウィング札幌、札幌市立平岸小学校、札幌市立平岸西小学校、札幌市立平岸高台小学校、札幌市立東山小学校、島袋道浩、山本高之、三原聡一郎、北海道日本ハムファイターズ、中修静&金敦也(galerie noir/blanc)、なえぼのアートスタジオ、萩谷海、NPO S-AIR、北海道立近代美術館、CAI02 ギャラリー、北海道大学総合博物館、札幌文化芸術交流センター SCARTS(公益財団法人札幌市芸術文化財団)、三土隆之(みつち鍼灸整骨院)、ヴィアラ九条山、福屋餅菓子舗

UCGN アーティスト・イン・レジデンス・プログラム 2019-2020

北海道大学物理エソロジー研究室、上杉高雅(ガラス工房 Studio π)、札幌市立大学、風間天心、尾谷拓郎、PROVO、SIAF ラボ、Renick Bell、メキシコ大使館、札幌文化芸術交流センター SCARTS(公益財団法人札幌市芸術文化財団)

以下、文化庁支援対象プログラム、アーティスト別

令和元(平成31)年度文化庁アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業 さっぽろ天神山アートスタジオ「あたりまえだけど、わたしたちは 昨日から明日をつないでいる」共催：一般社団法人 AIS プランニング

交換プログラム Barim(光州、韓国)

上田文雄、加藤康子、マユンキキ、札幌市市民文化局文化部文化振興課創造都市ネットワーク担当、駐札幌大韓民国総領事館、魚源

交換プログラム Asialink(メルボルン、オーストラリア)

Asialink (Pippa Dickson, Sarah Jones, Fayen d' Evie, Carolin Casey, Rima Lee), Masato Takasaka、松永一義(在メルボルン日本国総領事)、福田絵梨子(苫小牧市美術博物館)、藤沢レオ、樽前arty、森田遊園、森田文子

交換プログラム Taitung Dawn Artist Village(台東、台湾)

石村明子、上ノ大作、上田隆之(隆香窯)、加地学、工藤和彦、中村裕(草の窯)、白戸孝行(北海道妬器窯/白戸窯)、三橋加代子、こむろしずか、千葉朋子、NPO 法人北の映像ミュージアム、北海道道立総合研究機構地質研究所、北海道埋蔵文化財センター、葺島栄紀(北海道大学アイヌ・先住民研究センター)、田本はる菜(北海道大学アイヌ・先住民研究センター)、旭川市博物館、江別市郷土資料館、江別市セラミックセンター、Shu Lun Wu (Taitung Dawn Artist Village)

国際公募 AIR プログラム

-s(k)now アーティスト・イン・スクール・プログラム|アドルونت 風間天心、中宮典子、長谷川眞理、永田壘、札幌市立本町小学校、在東京タイ大使館

-s(k)now エキシビション・プログラム|ウンディネ・ゾマー

磯崎道佳、風間天心、上川町郷土資料館ふる里たいせつ館、北茨城市歴史民俗資料館・野口雨情記念館、菊池史子、佐藤謙、北海道自然保護協会、層雲峡ビジターセンター、東川寺、西松秀祐、上川町教育委員会

-s(k)now 日本アーティスト・プログラム|樺山智子

萱野志朗、平取町二風谷アイヌ語教室、氏原英和(R[アール])、山下俊介(北海道大学総合博物館)、北海道大学アイヌ・先住民研究センター、長田佳宏(平取町立二風谷アイヌ文化博物館)、広岡絵美(平取町立二風谷アイヌ文化博物館)、マユンキキ

成果発表プログラム 南隆雄

北海道立北方民族博物館、網走市立美術館、太陽下宿、渡辺さんとお友達のみなさん、オオタフインアーツ、東京スタデオ、倉地宏幸、リザルト、山下俊介(北海道大学総合博物館)、天野太郎

成果発表プログラム 永岡大輔・松本力

山口一樹、加藤康子、澤田直矢、佐藤学、松宮文恵、園泰子、櫻井暁、白倉伸義、澤井俊和、澤井翔太、佐藤真奈美(清水沢プロジェクト)、安斉尚朋(一般社団法人らぶらす)、夕張のみなさん、北海道博物館、江別市郷土資料館、北炭団地

AIR 勉強会

AIR ネットワークジャパン、なえぼのアートスタジオ、CAI02 ギャラリー、郷土料理加賀屋、札幌市、札幌文化芸術交流センター SCARTS(公益財団法人札幌市芸術文化財団)

スタッフ

■管理運営マネジメント/統括：漆崇博(一般社団法人 AIS プランニング)

■コーディネーター：坂口千秋、松田朕佳、小林亮太郎、関根ちあみ、深澤優子、山田大揮(さっぽろ天神山アートスタジオ)

■コレスポネンダス：五十嵐千夏、花田悠樹

■ドキュメント：小林大賀、小牧寿里、福原明子、須之内元祥、寺岡桃、佐藤拓実、さっぽろ天神山アートスタジオ

■AIR ディレクター/事業設計・企画：小田井真美

SAPORO TENJINYAMA ART STUDIO ANNUAL REPORT Part.02

2020年11月1日発行

翻訳：坂口千秋、萩原留美子、松田朕佳、アンドレアス・シュトールマン、樺山智子、石村明子

撮影：小牧寿里、さっぽろ天神山アートスタジオ

編集：小田井真美、さっぽろ天神山アートスタジオ

協力：杉本直貴(AIS プランニング)

デザイン：真砂雅喜

発行：札幌市

2019年度 AIR 事業の一部は、令和元(平成31)年度文化庁アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業により実現しました。

さっぽろ天神山アートスタジオ

〒062-0932 札幌市豊平区平岸2条17丁目1番80号(天神山緑地内)

TEL 011-820-2140

info@tenjinyamastudio.jp

tenjinyamastudio.jp



Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

さっぽろ
天神山
アートスタジオ
Sapporo Tenjinyama Art Studio



さっぽろ市
01-D05-20-1595
R2-1-141

**SAPP
RO**

tenjinyamastudio.jp